

IP ADVANCED RADIO SYSTEM
CONTROLLER

IP1000C

はじめに

1 ご使用になる前に

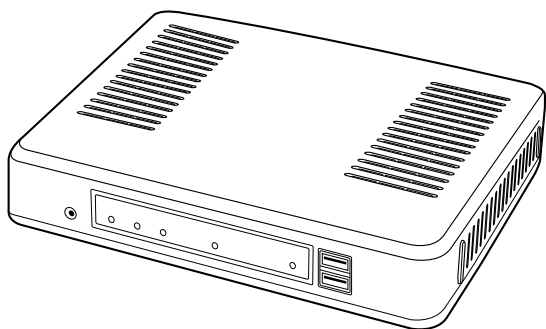
2 導入ガイド

3 そのほかの基本機能

4 設定画面について

5 保守について

6 ご参考に



Icom Inc.

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、IPネットワークを経由して弊社製IP100Hを制御するためのコントローラーです。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

表記について

本書は、次の規則にしたがって表記しています。

「 」表記：本製品の各メニューと、そのメニューに属する設定画面の名称を(「 」)で囲んで表記します。

[]表記：各設定画面の設定項目名を([])で囲んで表記します。

〈 〉表記：設定画面上に設けられたコマンドボタンの名称を(〈 〉)で囲んで表記します。

※Microsoft® Windows® 8.1、Microsoft® Windows® 8.1 Proは、Windows 8.1と表記します。

Microsoft® Windows® 7 Home Premium、Microsoft® Windows® 7 ProfessionalおよびMicrosoft® Windows® 7 Ultimateは、Windows 7と表記します。

Microsoft® Windows Vista® Home Basic、Microsoft® Windows Vista® Home Premium、Microsoft® Windows Vista® BusinessおよびMicrosoft® Windows Vista® Ultimateは、Windows Vistaと表記します。

※本書は、Ver. 1.61のファームウェアを使用して説明しています。

※本書では、Windows 7の画面を例に説明しています。

※本書中の画面は、OSのバージョンや設定によって、お使いになるパソコンと多少異なる場合があります。

※本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。

登録商標/著作権について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴは、アイコム株式会社の登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名およびサービス名は、各社の商標または登録商標です。

本書の内容の一部または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

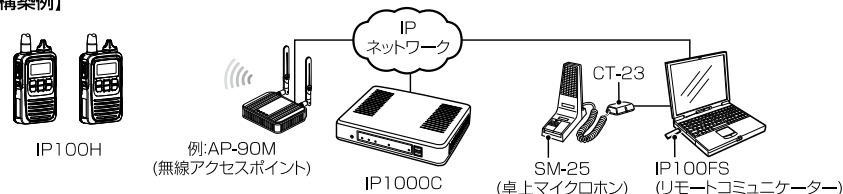
はじめに

本製品の概要について

◎ 本製品は、弊社製IP100Hを制御するコントローラーとして、IPネットワークを経由した呼び出しやメッセージの送受信に対応しています。

※ご利用になるためには、無線アクセスポイントが必要です。

【構築例】



◎ 弊社製IP100H(トランシーバー)、IP100FS(リモートコミュニケーター)を、合計100台まで本製品に登録して使用できます。

※IP1000C#02をご使用になる場合は、最大20台まで登録できます。

※IP100FSは、IP1000Cに接続されたIP100HとIPネットワークを経由して音声通信できるソフトウェアです。

◎ 2種類(単信/複信)の通信方式に対応しています。

※単信は送信と受信を交互に切り替えて交信する方式、複信は電話のように同時通話できる方式です。

◎ 呼出種別は、「全体」、「グループ」、「個別」、「電話」に対応しています。

◎ 全体、グループ呼び出しでは、呼び出し先ごとに、「同報」(1対N)、「会議」(多者間通話)が設定できます。

※端末側でどのグループに所属するかを選択できるトークグループも設定できます。

◎ 近隣呼出機能を設定すると、特定のエリア(例：1Fフロア)での運用ができます。

◎ 複数のIP1000Cで他拠点接続機能を設定すると、はなれた拠点間で呼び出しができます。

※必要に応じて、SR-VPN1などVPNルーターをご用意ください。

◎ 弊社製VE-PG3に接続すると、弊社製無線機(特定小電力トランシーバーやデジタル簡易業務用無線機など)とも通信できます。

※弊社製VR-7000も併用して内線/外線通話もするときは、コンバーターモードに設定されたVE-PG3のブリッジポートに接続してください。

◎ 設定グループごとに、アドレス帳(最大50件)やメッセージ(最大10件)が登録できます。

◎ IP100Hから送信されたステータス情報(例：会議中)を、本製品やIP100FS(リモートコミュニケーター)側で確認できます。

※本製品で登録できるステータス情報(プレゼンス)は、最大10件です。

◎ 本製品で設定した内容は、IP100Hの電源を入れたときに自動転送されます。

◎ 本製品からIP100Hのファームウェアを自動更新できます。

◎ 本製品の専用ページから、オーダーコールシステムの受信機と接続できます。

接続した受信機の状態を、IPネットワークを経由して、IP100HやIP100FSで確認できます。

◎ 有線LANは、10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-Tの自動切り替えに対応し、ポートの極性についても、MDI(ストレート)/MDI-X(クロス)を自動判別します。

◎ [LAN]ポートは、4ポートスイッチングHUBを搭載しています。

◎ ネットワーク管理機能として、SNMPに対応しています。

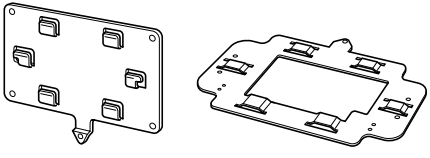
◎ あらかじめ本製品の設定ファイルやファームウェアファイルを保存した市販のUSBメモリーを差し込んでから電源を入れることで、自動で設定の復元やファームウェアのバージョンアップができます。

はじめに

別売品について

(2016年6月現在)

MB-99A
壁面取付プレート(タッピングネジ付属)



壁面プレート ユニットプレート

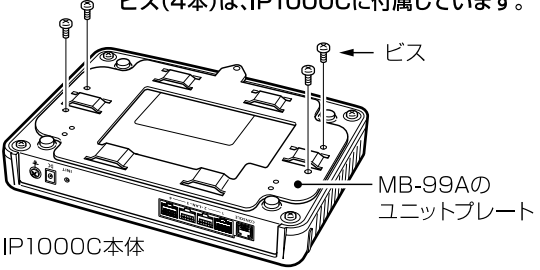
OPC-1402
設定用ケーブル(シリアル通信用(約1m))



IP100FS
リモートコミュニケーター

※IP100FSは、IP1000Cに接続されたIP100HとIPネットワークを経由して音声通信できるソフトウェアです。

【ご注意】 ユニットプレートを固定するためのビス(4本)は、IP1000Cに付属しています。



← ビス

MB-99Aのユニットプレート

IP1000C本体

【別売品についてのご注意】

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。

弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じるネットワーク機器の破損、故障あるいは動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

出荷時のおもな設定値について

設定メニュー	設定画面	設定項目	設定名称	設定値
ネットワーク設定	本体IPアドレス	IPアドレス設定	IPアドレス	192.168.0.1
			サブネットマスク	255.255.255.0
管理	DHCPサーバー	DHCPサーバー設定	DHCPサーバー	無効
	管理者	管理者パスワードの変更	管理者ID	admin(変更不可)
			現在のパスワード	admin(半角小文字)
	時刻	自動時計設定	自動時計設定	有効
		SNTPサーバー設定	SNTPサーバー機能	有効
	USB	USB設定	USBポート	有効
			USBアクセス許可	☒ ファームウェアの更新 ☒ 設定の保存／復元
	ファームウェアの更新	自動更新	自動更新	有効

※上記以外の設定値については、本書4章をご覧ください。

※本製品の管理者用ID(admin)は、変更できません。

【不正アクセス防止のアドバイス】

本製品に設定するすべてのパスワードは、容易に推測されないものにしてください。

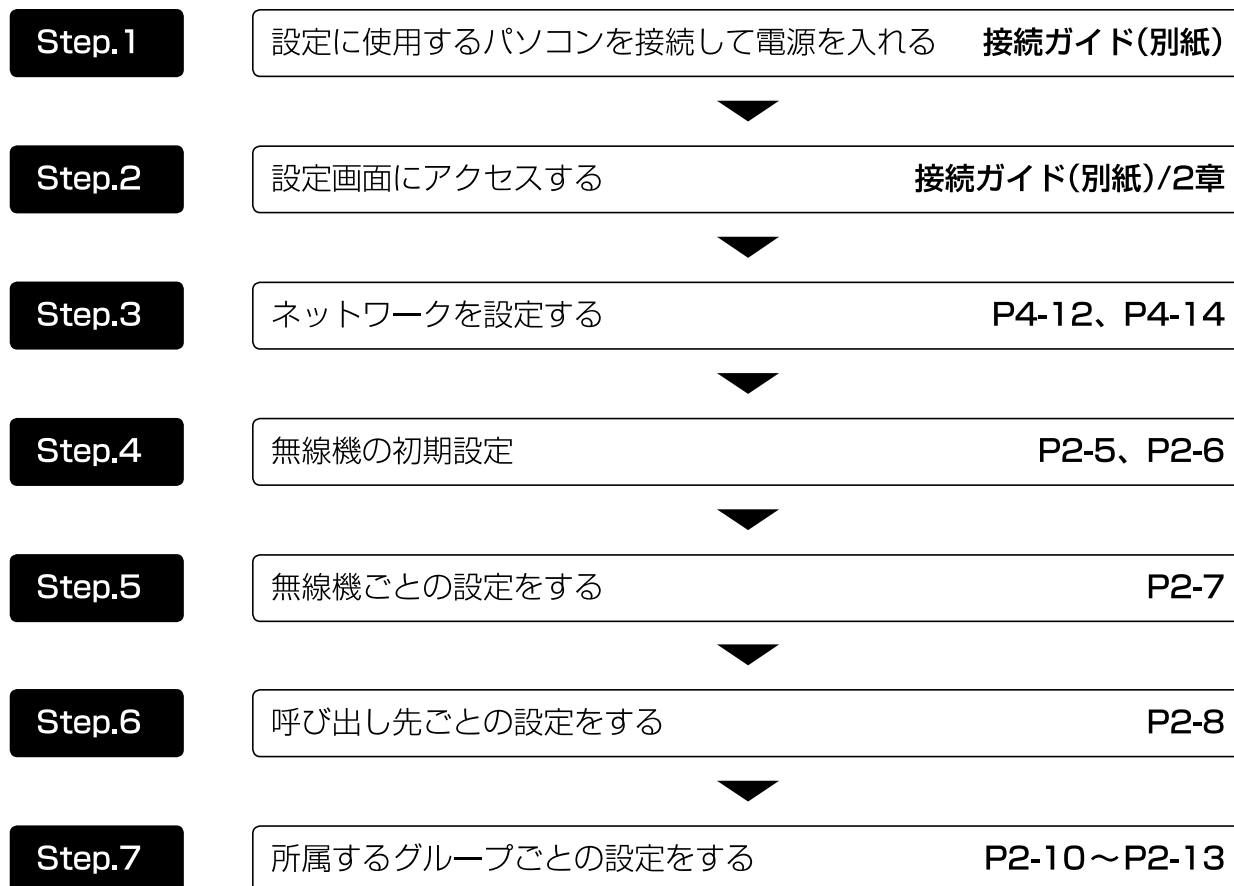
数字だけでなくアルファベット(大文字/小文字)や記号などを組み合わせた複雑なものにし、さらに定期的にパスワードを変更されることをおすすめします。

はじめに

ご使用までの流れ

本製品を設定されるときは、次の手順にしたがってお読みください。

※各Stepの右端に記載する数字は、本書の参照箇所です。



ご使用になる前に

第 1 章

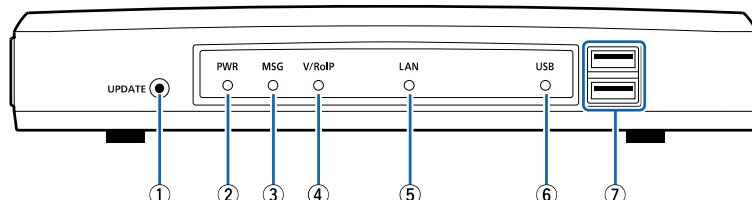
この章では、
本製品の基本操作やおもな機能などを説明しています。

1. 各部の名称と機能	1-2
■ 前面部	1-2
■ 後面部	1-4
2. 本製品のおもな機能	1-5
■ 基本構成について	1-5
■ 弊社製 VE-PG3 との接続について	1-6
■ 単信 / 複信通信について	1-7
■ VOX 機能について	1-8
■ 多重通信について	1-9
■ 全体 / グループ呼び出しについて	1-9
■ トークグループについて	1-10
■ 個別呼び出しについて	1-11
■ 通話状態について	1-11
■ 優先呼び出しと優先度について	1-12
■ 近隣呼出機能について	1-13
■ メッセージ機能について	1-14
■ プレゼンス機能について	1-15

1 ご使用になる前に

1. 各部の名称と機能

■ 前面部



①<UPDATE>ボタン ………

最新ファームウェアがあるとき、[MSG]ランプ(③)が点灯(緑)から点滅(緑)に切り替わるまでボタンを押して、ファームウェアを更新します。

※ファームウェアの更新や確認には、インターネットへの接続環境と本製品へのDNS設定、デフォルトゲートウェイ設定が必要です。

②[PWR]ランプ ………

- 消 灯：電源OFF
- 緑点灯：電源ON★¹
- 緑点滅：起動処理中★¹★²
- 橙点灯：起動処理中★¹
- 橙点滅：起動処理中★¹★²

★¹ 電源投入後は、緑点滅→橙点灯→橙点滅→緑点灯となります。

★² <INIT>ボタン操作から初期化完了までは、橙/緑交互点滅となります。

③[MSG]ランプ ………

- 消 灯：ファームウェア更新なし
- 緑点灯：ファームウェア更新あり(オンライン更新)
- 緑点滅：ファームウェアダウンロード中(オンライン更新)

④[V/RoIP]ランプ ………

- 消 灯：無線機の登録なし
- 緑点灯：無線機の登録あり※1つ以上

⑤[LAN]ランプ★³★⁴ ………

- 消 灯：未接続時
- 緑点灯：LAN接続時※1つ以上(1000BASE-T接続時)
- 橙点灯：LAN接続時※1つ以上(10BASE-T/100BASE-TX接続時)

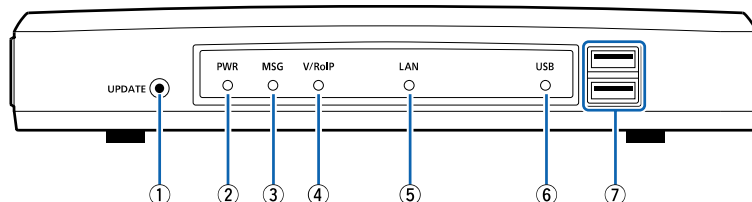
★³ 1000BASE-T、10BASE-T/100BASE-TXが混在した場合は、[LAN]ランプが橙色で点灯します。

★⁴ [LAN]ポートごとのデータ通信状態については、後面部の[LAN]ランプで確認できます。(P1-4)

1 ご使用になる前に

1. 各部の名称と機能

■ 前面部(つづき)



⑥ [USB] ランプ

- 消 灯：USBメモリ未接続時
- 緑点灯：USBメモリ接続時
- ※ 緑点滅：USBメモリにアクセス中★⁵
- ※ 橙点滅：USBメモリにアクセス中★⁵

★⁵ USBメモリにアクセス中(設定復元、およびファームウェアのバージョンアップ)は、橙/緑交互点滅となります。

⑦ [USB] ポート

(USB2.0×2)

USBメモリ(市販品)を接続すると、自動設定機能を使用できます。
ご使用になるときは、本製品のACアダプターを取りはずしてから、USBメモリを[USB]ポートの奥まで挿入してください。
※すべてのUSBメモリでの動作を保証するものではありません。

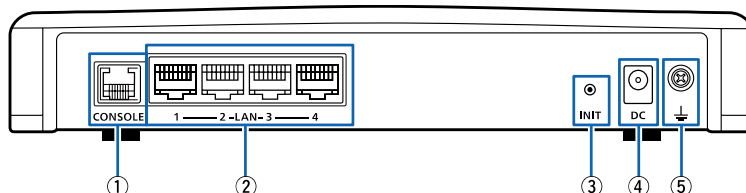
【USBメモリによる自動設定機能を使用するときは】

本製品の設定復元やバージョンアップで使用するUSBメモリを接続します。
※本製品に接続できるUSBメモリは、1つだけです。
※使用方法や注意事項については、5-9ページをご覧ください。
※あらかじめ、USBメモリ内のデータをバックアップしてから、ご使用ください。
※指紋認証型、アプリケーション認証(パスワード認証)型など、セキュリティ対応型のUSBメモリは使用できません。

1 ご使用になる前に

1. 各部の名称と機能(つづき)

■ 後面部



- ① [CONSOLE]ポート ……
(RJ-11型×1)

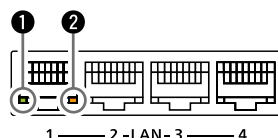
RS-232Cシリアルインターフェース搭載の制御機器と接続して、本製品を設定するとき 사용합니다。

※接続には、設定用ケーブル(別売品：OPC-1402)が必要です。

- ② [LAN]ポート ……………
(RJ-45型×4)

HUBなどのネットワーク機器と接続します。

【ランプ表示】



点灯: LAN接続時 点滅: LANデータ通信中

① 緑色 : 1000BASE-T時

② 橙色 : 10BASE-T/100BASE-TX時

- ③ <INIT>ボタン ……………

本製品に設定されたIPアドレスが不明な場合など、設定画面にアクセスできないときは、後面部の<INIT>ボタン操作で、本製品のすべての設定内容を出荷時の状態に戻せます。(P5-4)

※ペン先などを利用して押してください。

※初期化すると、既存の設定内容がすべて消去されますので、再設定が必要になります。

- ④ DCジャック ……………

付属のACアダプターを接続します。

- ⑤ アース端子 ……………

アース線(市販品)を接続します。

1 ご使用になる前に

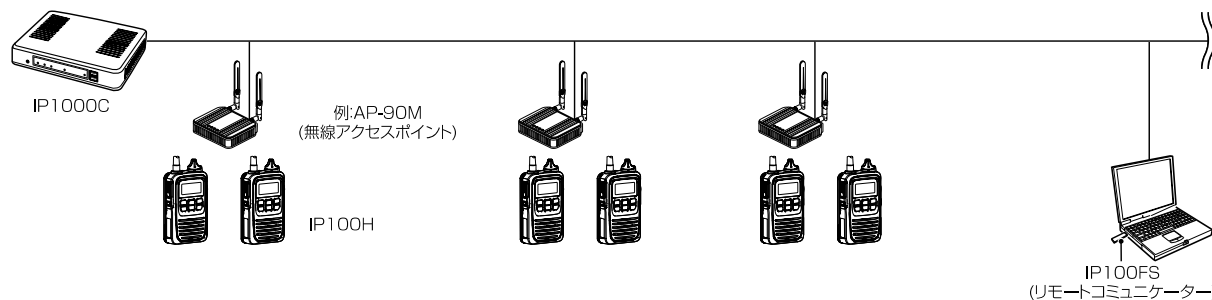
2. 本製品のおもな機能

■ 基本構成について

本製品は、弊社製IP100Hを制御するコントローラーとして、IPネットワークを経由した呼び出しやメッセージの送受信に対応しています。

※ご利用になるためには、無線アクセスポイントが必要です。

※2016年6月現在、弊社製IP100H、IP100FSが使用できます。



IP100H(トランシーバー)

IP100Hは、無線LANの[IEEE802.11n/a/b/g]規格に準拠しています。

無線アクセスポイントと本製品を利用して、IPネットワークを経由した音声通信やメッセージ通信ができます。

※ご使用になる環境に合わせたシステム構成を構築してから、IP1000C側での無線機追加設定、CS-IP100Hから無線LAN設定と保守サーバー設定をする必要があります。

※IP100Hの操作方法について詳しくは、IP100Hの取扱説明書をご覧ください。

IP100FS(リモートコミュニケーター)

本製品に登録したIP100HとIPネットワークを経由して音声通信できるソフトウェアです。

パソコンからの呼び出しやメッセージの送受信、IP100Hの位置情報、IP100Hから送信されたプレゼンス情報の確認、IP100Hの遠隔ロックなどに対応しています。

※使用方法について詳しくは、IP100FSのヘルプをご覧ください。

CS-IP100H(クローニングソフトウェア)

IP100Hをパソコンから設定するためのクローニングソフトウェアとして、CS-IP100H(弊社ホームページからダウンロードできるフリーウェア)があります。

※弊社ホームページに掲載の「CS-IP100H取扱説明書」をよくお読みいただき、手順にしたがって別売品のクローニングケーブルを接続してください。

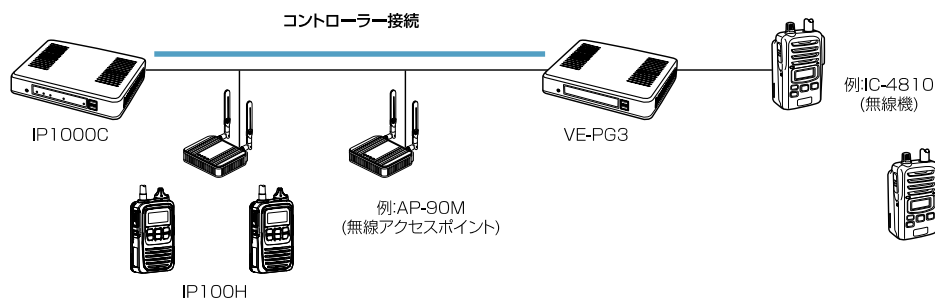
1 ご使用になる前に

2. 本製品のおもな機能(つづき)

■ 弊社製VE-PG3との接続について

◎コントローラー接続する場合

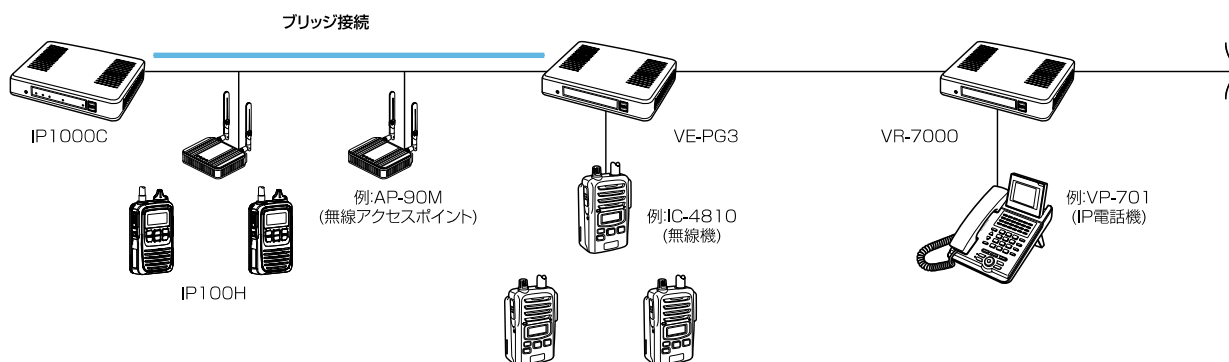
弊社製VE-PG3(Ver. 2.01以降)とコントローラー接続★¹すると、弊社製無線機(特定小電力トランシーバーやデジタル簡易業務用無線機など)とも通信できます。



★¹ 接続できるのは、ブリッジモードに設定されたVE-PG3のコントローラーポートだけです。

◎ブリッジ接続する場合

弊社製VE-PG3(Ver. 1.18以降)とブリッジ接続★²すると、弊社製無線機(特定小電力トランシーバーやデジタル簡易業務用無線機など)とも通信でき、弊社製VR-7000などVoIPルーターも併用すると内線や外線の通話ができます。



★² 接続できるのは、コンバーターモードに設定されたVE-PG3のブリッジポートだけです。

1 ご使用になる前に

2. 本製品のおもな機能(つづき)

■ 単信/複信通信について

本製品は、2種類(単信/複信)の通信方式に対応しています。

単信は送信と受信を交互に切り替えて交信する方式、複信は電話のように同時通話できる方式です。

本製品に登録したIP100Hごとに、「無線機個別」画面で通信方式を設定します。

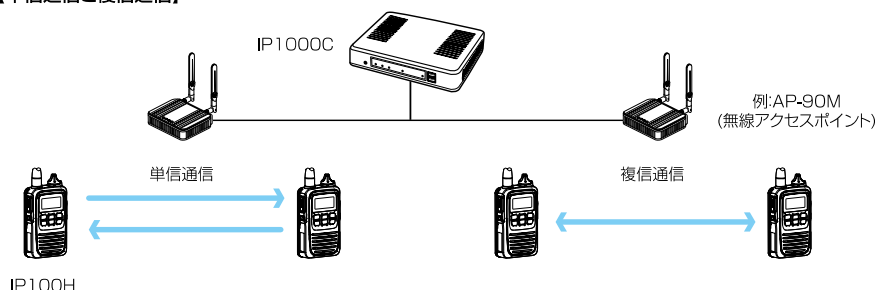
※複信通信を設定した場合は、IP100Hに別売品のマイクロホン(HM-153LS/HM-153★¹、HM-166LS/HM-166★¹、HS-85★¹)やヘッドセット(HS-102★²)を接続することで、相手が送信しているときでも、電話のように同時通話できます。

★1 OPC-2144(スリムL型プラグ変換ケーブル)が必要です。

★2 OPC-2359(通話スイッチ内蔵型接続ケーブル)が必要です。

※IP100Hにマイクロホンなどが接続されていないときは、単信通信になります。

【単信通信と複信通信】



		接続ケーブル	複信通信	単信通信
HM-104★ ¹	単一指向性タイピン型マイクロホン	OPC-2277LS★ ²	×	○
HM-104A★ ¹	無指向性タイピン型マイクロホン	OPC-2277LS★ ²	×	○
HM-153	イヤホンマイクロホン	OPC-2144	○	○
HM-153LS	イヤホンマイクロホン	—	○	○
HM-166	小型イヤホンマイクロホン	OPC-2144	○	○
HM-166LS	小型イヤホンマイクロホン	—	○	○
HM-183LS	防水形スピーカーマイクロホン	—	×	○
HM-186	小型スピーカーマイクロホン	OPC-2144	×	○
HM-186LS	小型スピーカーマイクロホン	—	×	○
HS-102	イヤホン型ヘッドセット	OPC-2359★ ³	○	○
SP-13	イヤホン	OPC-2144	×	○
		OPC-2375LS	×	○
SP-16 (B、BW)	イヤホン	OPC-2375LS	×	○
SP-28	イヤホン	OPC-2277LS★ ²	×	○
SP-29	イヤホン	OPC-2375LS	×	○
HS-85	VOX機能付きヘッドセット	OPC-2144	○	○
HS-88 (生産終了品)	ヘッドセット	OPC-2277LS★ ²	×	○
HS-94	イヤーフック型ヘッドセット	OPC-2006LS	×	○
		OPC-2328★ ⁴	×	○
HS-95	ネックアーム型ヘッドセット	OPC-2006LS	×	○
		OPC-2328★ ⁴	×	○
HS-97	咽喉マイクロホン	OPC-2006LS	×	○
		OPC-2328★ ⁴	×	○
HS-99	耳かけ式イヤホンマイク	OPC-2006LS	×	○
		OPC-2328★ ⁴	×	○

★1 別売品のイヤホン(EH-14、EH-15、EH-15B、SP-28)と組み合わせてご使用になれます。

★2 OPC-2277LSのスイッチを使用して送信します。

★3 OPC-2359のスイッチを使用して送信します。

★4 OPC-2328のスイッチを使用して送信します。

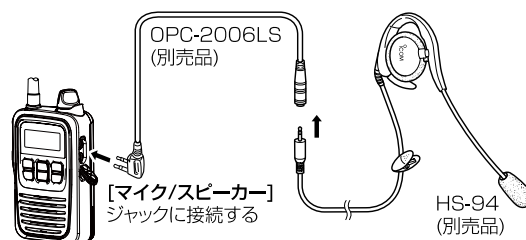
1 ご使用になる前に

2. 本製品のおもな機能(つづき)

■VOX機能について

IP100Hの[PTT(送信)]スイッチを押さずに、ヘッドセット(別売品)からの音声によって送受信を自動的に切り替えるVOX機能を使用できます。

※VOX機能対応のヘッドセット(別売品)を接続すると、音声によって送受信を自動的に切り替えます。



		接続ケーブル	複信通信	単信通信	IP1000Cで設定する IP100HのVOX機能
HS-85	VOX機能付きヘッドセット	OPC-2144	○	○	無効★
HS-94	イヤーフック型ヘッドセット	OPC-2006LS	×	○	有効
HS-95	ネックアーム型ヘッドセット		×	○	
HS-97	咽喉マイクロホン		×	○	
HS-99	耳かけ式イヤホンマイク		×	○	

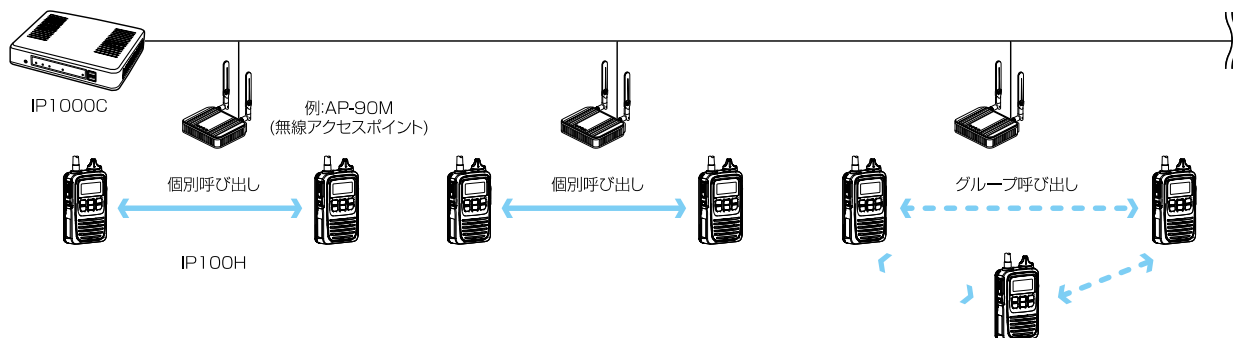
★ HS-85本体の切り替えスイッチを「VOX」にしてください。

1 ご使用になる前に

2. 本製品のおもな機能(つづき)

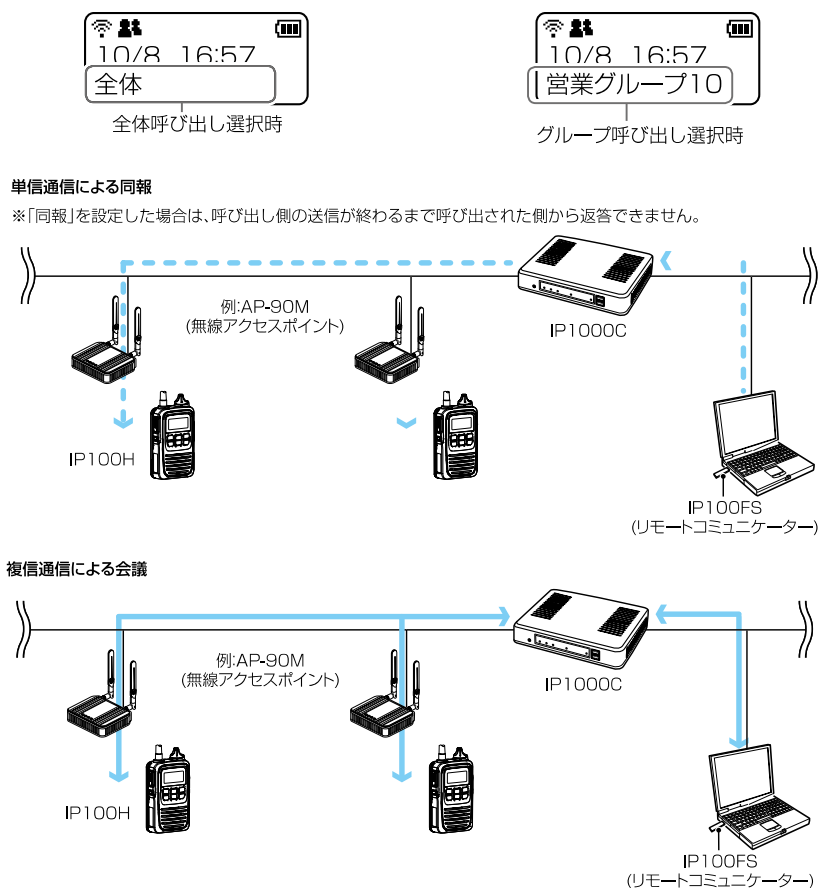
■多重通信について

IPネットワークでは混信が発生しないため、システム内で同時に複数の音声通信ができます。



■全体/グループ呼び出しについて

全体、グループ呼び出しごとに、「同報」(1対N：単信通信)、「会議」(多者間通話：複信通信)が設定できます。



全体呼び出しについて

IP1000Cの「無線機追加」画面で登録したIP100H、IP100FSをすべて呼び出すときに使用します。

グループ呼び出しについて

呼び出したいグループをアドレス帳から選択して呼び出します。

※IP1000Cの「無線機追加」画面で登録したIP100H、IP100FSを、「呼出先設定」画面でグループに分け、呼び出すためのグループ番号を割り当てる必要があります。

※IP1000Cで設定したアドレス帳、呼出先設定は、IP100H、IP100FSが所属する設定グループごとで共用します。

1 ご使用になる前に

2. 本製品のおもな機能(つづき)

■トークグループについて

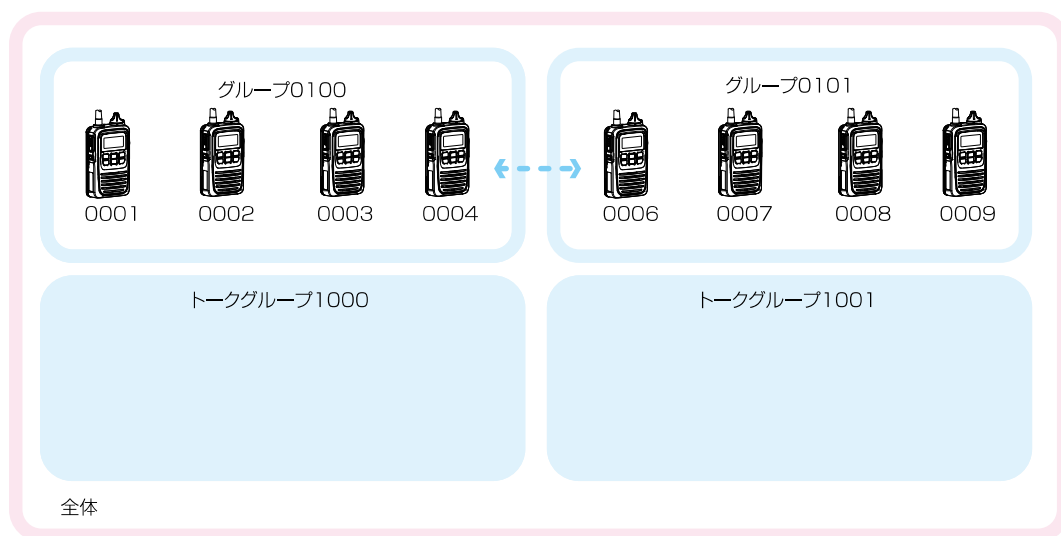
あらかじめIP1000C側にトークグループとして登録しておいたグループから、IP100H側でどのグループに所属するかを選択できる機能です。

同じトークグループに所属するほかの端末とグループ呼び出しができます。

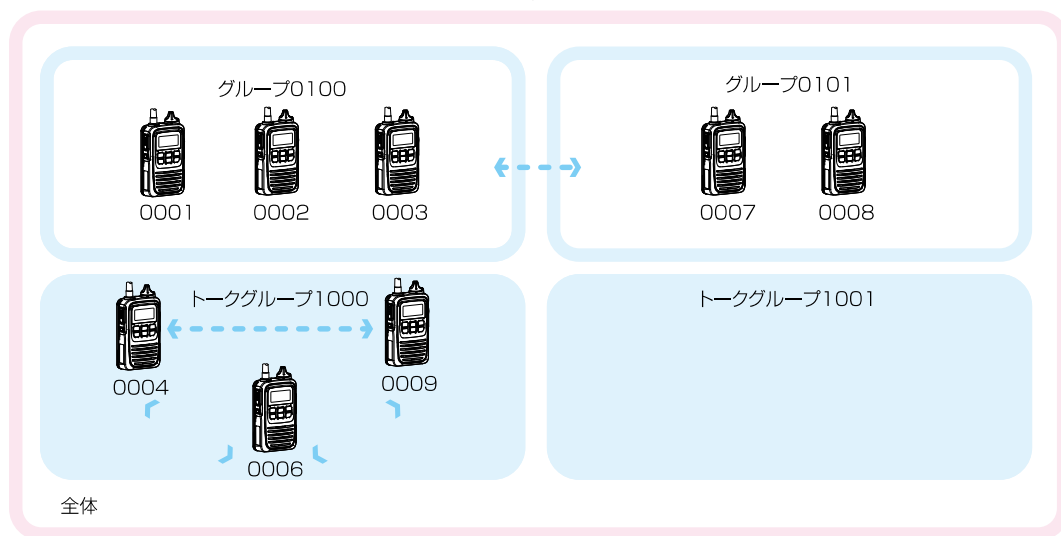
図のように、トークグループ(例：1000)を選択すると、その端末(例：0004)は通常のグループ(例：0100)からはずれます。

※IP100H側の操作方法については、2-9ページをご覧ください。

トークグループOFF時



トークグループ選択時



※IP1000Cの「呼出先設定」画面と「アドレス帳」画面でトークグループ番号を登録する必要があります。

※全体呼び出しの対象にトークグループを含めるかどうか、トークグループの呼び出し対象にどのIP100FSを含めるかなど、IP1000Cで設定します。

※IP1000Cで設定したアドレス帳、呼出先設定は、IP100H、IP100FSが所属する設定グループごとで共用します。

1 ご使用になる前に

2. 本製品のおもな機能(つづき)

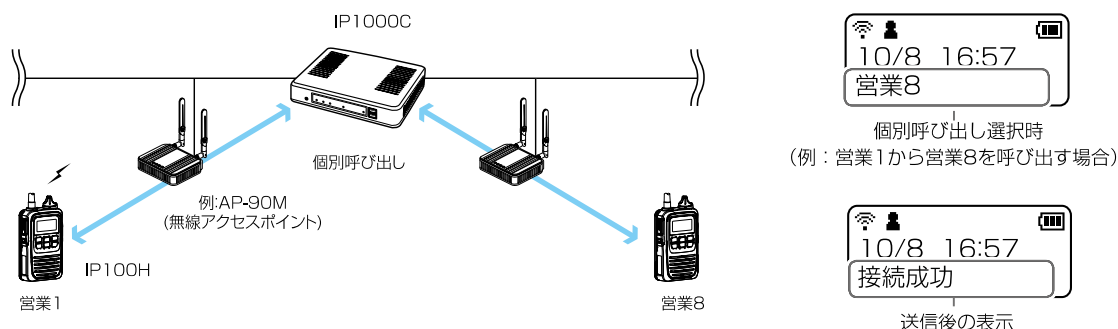
■ 個別呼び出しについて

指定した無線機と1対1で通話するとき 사용합니다。

個別呼び出しをすると、IP100Hの表示部に接続結果(接続成功/通話中/応答なし)が表示されます。

※相手先が圏外の場合は、「応答なし」が表示されます。

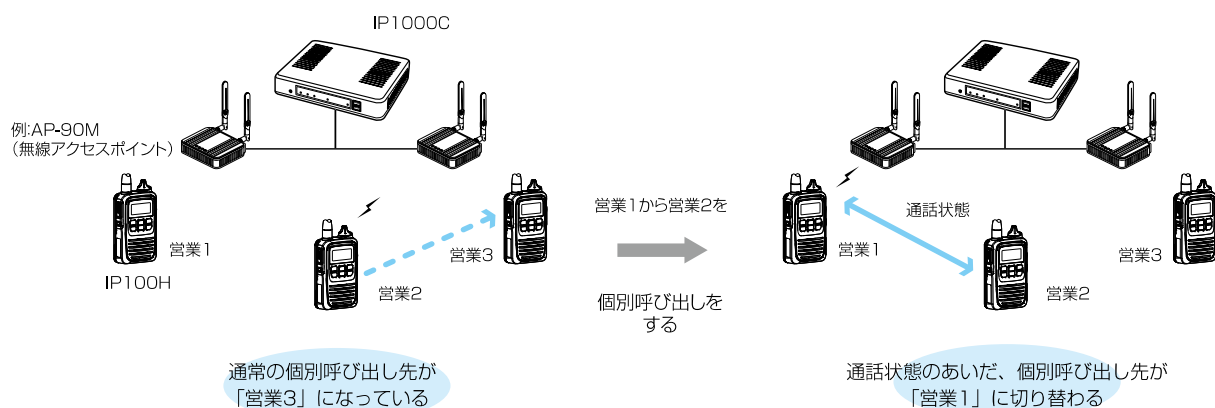
※「設定グループ詳細」画面で、接続通知音が「有効」に設定されているときは接続の成功や失敗を音でもお知らせします。



■ 通話状態について

発信、または着信をすると、通話状態になります。

通話状態のあいだ★は、送信操作だけで通話相手と通信できます。



★通話状態のあいだとは、終話判定時間内、または別の相手局を呼び出すまでのことです。

終話判定時間について

通話相手からの送信が終了したあと、待ち受け状態(待受画面)に戻るまでの時間です。(出荷時の設定: 5秒)

終話判定時間内の新規着信拒否(着信の優先度)について

通話相手からの送信が終了したあと、待ち受け状態(待受画面)に戻るまでに別の相手からの着信があった場合、優先度に応じて新規着信を受け付けるように設定されています。(P4-95)

※現在の通話よりも高い優先度の着信は受け付けますが、それ以下または同等の優先度の着信は受け付けません。

終話判定時間が経過したあとに、着信を受け付けます。

※IP1000Cで設定した終話判定時間は、IP100Hが所属する設定グループごとで共用します。

1 ご使用になる前に

2. 本製品のおもな機能(つづき)

■ 優先呼び出しと優先度について

出荷時、IP100Hに優先度の高い呼び出し権限を付与する場合に使用する優先呼出機能は、「無効」に設定されています。

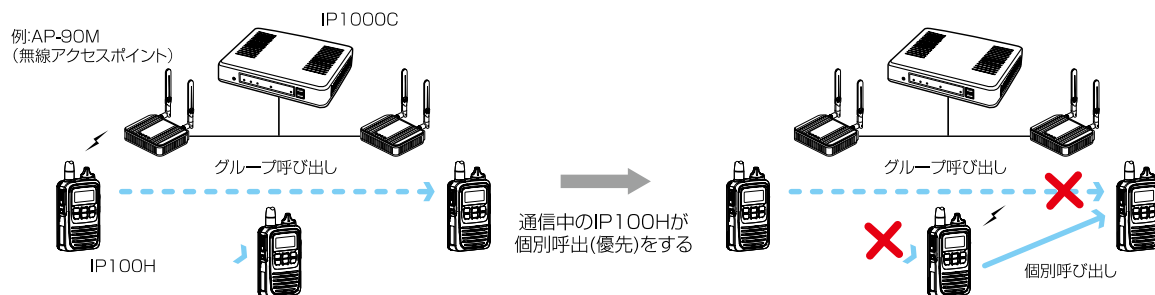
呼出種別ごとの優先度は、下記ようになります。

優先度	呼出種別	優先呼出	備考
高 ↑ ↓ 低	電話通信	—	電話通信
	全体呼出(優先)	有効	近隣呼出/IP100FS使用時も含む
	個別呼出(優先)	有効	IP100FS使用時も含む
	グループ呼出(優先)	有効	近隣呼出/IP100FS使用時も含む
	全体呼出	無効	近隣呼出も含む
低	個別呼出	無効	
	グループ呼出	無効	近隣呼出も含む

※同一優先順位内での優先度は、呼び出した順番となります。

※着信時の応答は、発信側の優先度にしたがいます。

【通信中に相手局を変更した場合】



1 ご使用になる前に

2. 本製品のおもな機能(つづき)

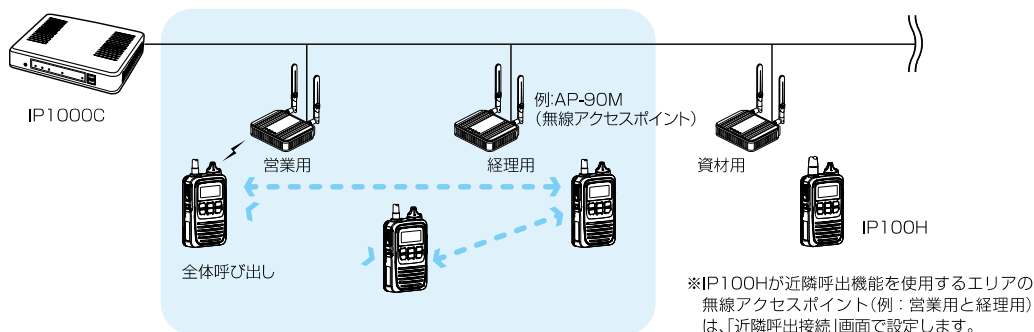
■ 近隣呼出機能について

特定のエリアに限定して運用をするときに使用する機能です。

(出荷時の設定：無効)

IP100H側で近隣呼出機能を「ON」にしている状態で全体/グループ呼び出しをすると、IP100Hが接続している無線アクセスポイントと同一エリア内のIP100Hを呼び出します。

【IP100Hから近隣呼出機能で全体呼び出しをした場合】



【IP100FSから近隣呼出機能で呼び出す場合】



※IP100FSから近隣呼出機能を使用する場合は、指定した無線アクセスポイント(例：営業用)と同一エリア内にある無線アクセスポイント(例：経理用)に接続しているIP100Hを呼び出せます。
※位置情報で無線アクセスポイントを選択すると、呼出種別(個別/グループ/全体/近隣/電話)と表示名をディスプレイに表示します。

※この機能を使用するには、IP100OCの「無線機個別」画面でIP100Hごとの近隣呼出機能を「有効」にし、「近隣呼出接続」画面でエリア内の無線アクセスポイント(BSSID)を登録しておく必要があります。

1 ご使用になる前に

2. 本製品のおもな機能(つづき)

■メッセージ機能について

IP100H、IP100FSでメッセージを送受信するときに設定します。(出荷時の設定：無効)

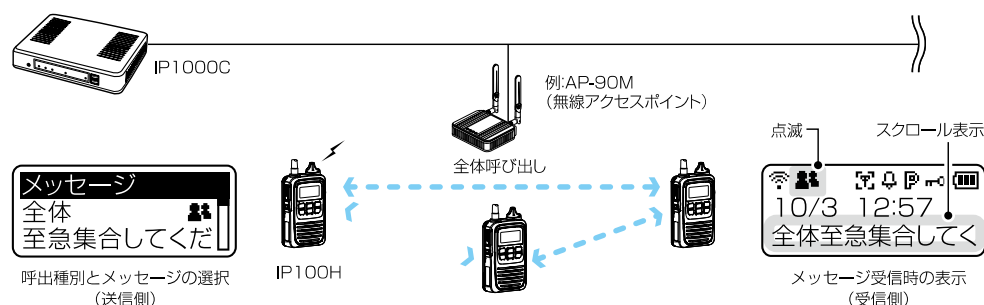
※IP100Hから送信する半角32(全角16)文字以内の定型メッセージは、「設定グループ」メニューの「メッセージ」画面で最大10件登録できます。

※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大16文字になります。

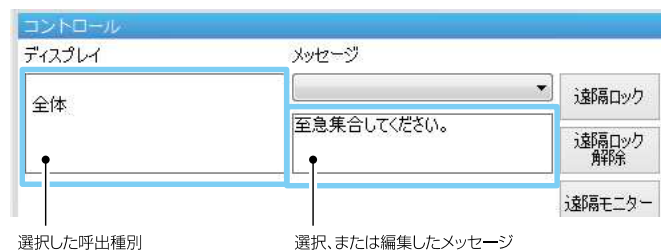
※環境依存文字を入力しないでください。

環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。

【IP100Hからメッセージを送信する場合】



【IP100FSからメッセージを送信する場合】



※IP100FSでは、最大100件の定型メッセージをサイトごとに登録できます。登録したメッセージを選択、またはメッセージを編集して送信できます。

※この機能を使用するには、IP100Cの「無線機個別」画面でIP100Hごとのメッセージ機能を「有効」にしておく必要があります。

※IP100Cで設定した定型メッセージは、IP100Hが所属する設定グループごとで共用します。

1 ご使用になる前に

2. 本製品のおもな機能(つづき)

■ プレゼンス機能について

IP100Hからステータス情報(例：会議中)を送信するときに設定します。(出荷時の設定：無効)

※IP100Hから送信する半角32(全角16)文字以内のステータス情報は、「設定グループ」メニューの「プレゼンス」画面で最大10件登録できます。

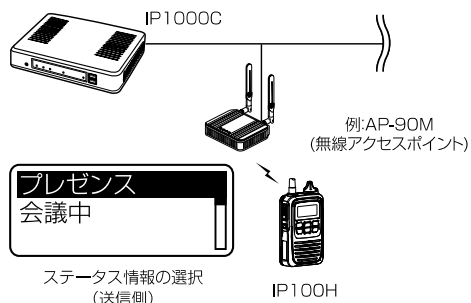
※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大16文字になります。

※環境依存文字を入力しないでください。

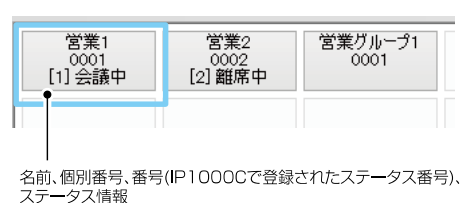
環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。

※IP100Hから送信されたステータス情報は、IP100FSのワンタッチボタン画面や本製品の「無線機設定」メニューの「無線機管理」画面で確認できます。

【IP100Hからプレゼンスを送信する場合】



【IP100FSでプレゼンスを確認する場合】



【IP100Cでプレゼンスを確認する場合】

無線機管理

無線機管理										レジスト状態の更新
☐ すべて	TRX番号	機種	名前	個別番号	レジスト 状態	IPアドレス	プレゼンス	トークグループ	位置情報	バージョン
☐	1	IP100H	営業1	0001	接続中	192.168.0.10	会議中	1	00-90-C7-	Ver. 1.00
☐	2	IP100H	営業2	0002	接続中	192.168.0.11	休憩中	1	00-90-C7-	Ver. 1.00
☐	3	IP100H	営業3	0003	未接続	-	-	-	-	-
☐	4	IP100FS		0004	未接続	-	-	-	-	-

選択無線機再起動
ファームウェアの強制更新:
無線機再起動:

ステータス情報

● 無効 ● 有効
実行

※この機能を使用するには、IP100Cの「無線機個別」画面でIP100Hごとのプレゼンス機能を「有効」にしておく必要があります。

この章では、
本製品をご使用いただくために必要な基本設定の手順を説明しています。

1. ご使用になるまでの流れ	2-2
■ 接続 / 設定準備について	2-2
■ 設定の流れについて	2-3
2. 無線機の構築について	2-4
■ 無線機の登録について	2-5
■ 登録の確認 / IP100H の再起動について	2-6
■ 無線機の個別設定について	2-7
■ グループ呼び出しについて	2-8
■ トークグループ呼び出しについて	2-9
■ アドレス帳について	2-10
■ メッセージについて	2-11
■ プレゼンスについて	2-12
■ 設定グループで共用するアドレス帳とメッセージについて	2-13
3. ブリッジ接続と呼出先設定について	2-14
4. 他拠点接続設定について	2-18
5. VE-PG3 とのコントローラー接続について	2-24
6. オーダーコールシステムについて	2-28

【ネットワーク環境について】

IP100Hを使用するには、本製品に接続できるネットワーク環境が必要です。
事前にご使用のネットワーク、および無線アクセスポイントの設定をご確認ください。

2 導入ガイド

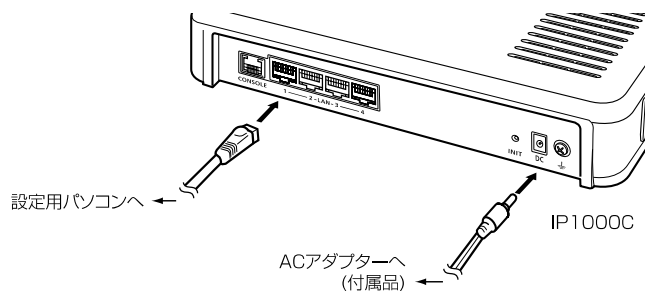
1. ご使用になるまでの流れ

■ 接続/設定準備について

本製品に機器を接続して、管理者用の設定画面にアクセスするまでの流れです。

1. 設定用パソコンの接続 (詳細は、別紙の「接続ガイド」をご覧ください。)

設定用パソコンを本製品の [LAN] ポートに接続し、電源を接続します。



2. 設定画面へアクセス (詳細は、別紙の「接続ガイド」をご覧ください。)

- ① WWWブラウザを起動し、アドレスバーに「http://本製品のIPアドレス/」を入力します。
入力例) http://192.168.0.1/
※出荷時、本製品のIPアドレスは、「192.168.0.1」に設定されています。
- ② [Enter]キーを押します。
- ③ [ユーザー名]欄に「admin」、[パスワード]欄に「admin」(出荷時の設定)を入力し、〈OK〉をクリックします。

2 導入ガイド

1. ご使用になるまでの流れ(つづき)

■ 設定の流れについて

設定画面を使用して、IP100Hを設定する場合の流れです。

※本書では、IP100Hが接続する無線アクセスポイント側の設定は完了しているものとして説明しています。

1. ネットワーク設定(P.4-12、P.4-14)

ご利用の環境に合わせて、本製品の「本体IPアドレス」画面でIPアドレス(出荷時の設定：192.168.0.1)、「DHCPサーバー設定」画面でDHCPサーバー機能(出荷時の設定：無効)を設定します。

2. 無線機の初期設定

個別番号など、使用するIP100H、IP100FSの設定を本製品に登録します。

「無線機追加」画面(P.2-5、P.4-35)

機種、名前、個別番号、パスワード、所属する設定グループを設定します。

※出荷時、パスワードは、「iptrx」に設定されていますので、任意のパスワードに変更してください。

このパスワードは、CS-IP100HでIP100Hを設定するときにも使用します。

※所属する設定グループごとに使用する共通設定は、「設定グループ」メニューで設定します。

CS-IP100H(クローニングソフトウェア)による設定(P.2-6)

IP1000C側でIP100Hを登録したあと、無線LAN設定(接続する無線アクセスポイント)、アンテナ設定(内部/外部)、保守サーバー接続設定(IP1000C)を、IP100HごとにCS-IP100Hで設定します。

※CS-IP100Hは、弊社ホームページからダウンロードできるフリーウェアです。

※弊社ホームページに掲載の「CS-IP100H取扱説明書」をよくお読みいただき、手順にしたがって別売品のクローニングケーブルを接続してください。

3. 設定グループ(P.2-10～P.2-13)

「無線機追加」画面で登録したIP100H、IP100FSが所属する設定グループごとに設定します。

「アドレス帳」画面

「無線機追加」画面で登録した個別番号、「呼出先設定」画面でグループ番号を登録します。(最大50件)

※VE-PG3をブリッジ接続している場合は、通話相手の電話番号を登録できます。

「メッセージ」画面

IP100Hから送信する半角32(全角16)文字*以内の定型メッセージを登録します。(最大10件)

「プレゼンス」画面

IP100Hから送信する半角32(全角16)文字*以内のステータス情報を登録します。(最大10件)

「設定グループ詳細」画面

使用するアドレス帳のグループ番号、送信するメッセージのグループ番号を設定します。

★IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大16文字になります。

※環境依存文字を入力しないでください。

環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。

【設定の更新について】

本製品で変更した設定をIP100Hに反映させるためには、IP100Hの再起動が必要になりますので、ご注意ください。

2 導入ガイド

1. ご使用になるまでの流れ

■ 設定の流れについて(つづき)

4. 無線機の個別設定(P.2-7)

「無線機追加」画面で登録したIP100Hごとに、「無線機個別」画面で使用する機能を設定します。

- | | |
|-------------|------------------|
| ◎アドレス帳からの呼出 | ◎通信方式(単信通信/複信通信) |
| ◎優先呼出 | ◎近隣呼出 |
| ◎メッセージ | ◎プレゼンス |

5. 呼出先設定(P.2-8)

「無線機追加」画面で登録したIP100H、IP100FSを、「呼出先設定」画面でグループに分け、呼び出すためのグループ番号を割り当て、呼び出し先ごとに通信種別(同報/会議)を設定します。

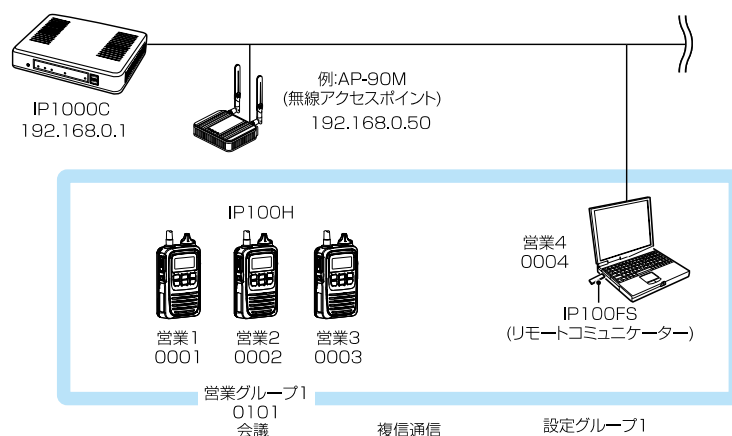
6. マイクゲイン/通知音/終話判定(P.4-39～P.4-96)

必要に応じて、「無線機個別」画面でIP100HのマイクゲインやVOX機能(HS-94/HS-95/HS-97/HS-99接続時)、「設定グループ詳細」画面で各種通知音、終話判定など設定グループで使用する共通設定をします。

2. 無線機の構築について

ご使用になる端末ごとに、個別番号などの設定が必要です。

下図を例に、IP1000Cに登録するIP100Hの設定について説明しています。



※本製品のネットワーク上に無線アクセスポイントを接続してください。

※本製品に、IP100HやIP100FSを最大100台まで登録できます。(※IP1000C #02の場合は最大20台)

※本書では、本製品をお使いになるネットワーク上のDHCPサーバーから、IP100HやIP100FSを使用するパソコンのIPアドレスを自動取得しているものとして説明しています。

※固定IPアドレスで運用される場合など、ネットワーク上でIPアドレスが重複しないようにご注意ください。

2 導入ガイド

2. 無線機の構築について(つづき)

■ 無線機の登録について

登録するIP100H、IP100FSごとに個別番号を設定します。

- 1 「無線機設定」メニュー、「無線機追加」の順にクリックします。
「無線機追加」画面が表示されます。
- 2 [TRX番号設定]項目で、登録する機種、名前、個別番号(4桁の番号)を設定して、〈追加〉をクリックします。

TRX番号設定

TRX番号: 1
機種: IP100H
名前: 営業1
個別番号: 0001

セキュリティ設定
パスワード: iptrx

ポート設定
無線機側ポート番号: 30000
サーバー側ポート番号: 30000

設定グループ
設定グループ: 1

「設定グループ詳細」画面の[設定グループ設定]項目で指定する番号です。

追加

①設定する

②クリック

- 3 [TRX番号設定一覧]項目で、登録した内容を確認します。

TRX番号設定一覧

☐ すべて	TRX番号	機種	名前	個別番号	パスワード	ポート番号 無線機側	サーバー側	設定グループ	アドレス
☐	1	IP100H	営業1	0001	iptrx	30000	30000	1	無効
☐	2	IP100H	営業2	0002	iptrx	30002	30002	1	無効
☐	3	IP100H	営業3	0003	iptrx	30004	30004	1	無効
☐	4	IP100FS	営業4	0004	iptrx	-	30006	1	無効

確認する

登録

【TRX番号一括設定について】

連番で個別番号を一括登録したり、すでに登録した設定内容をほかの個別番号にコピーしたりできます。

TRX番号一括設定

個別番号: ~ 追加 ※指定した範囲の連番を個別番号として登録を行います。
設定参照元: 初期値 ※重複できない設定は初期値で登録を行います。
設定グループ: 1

2 導入ガイド

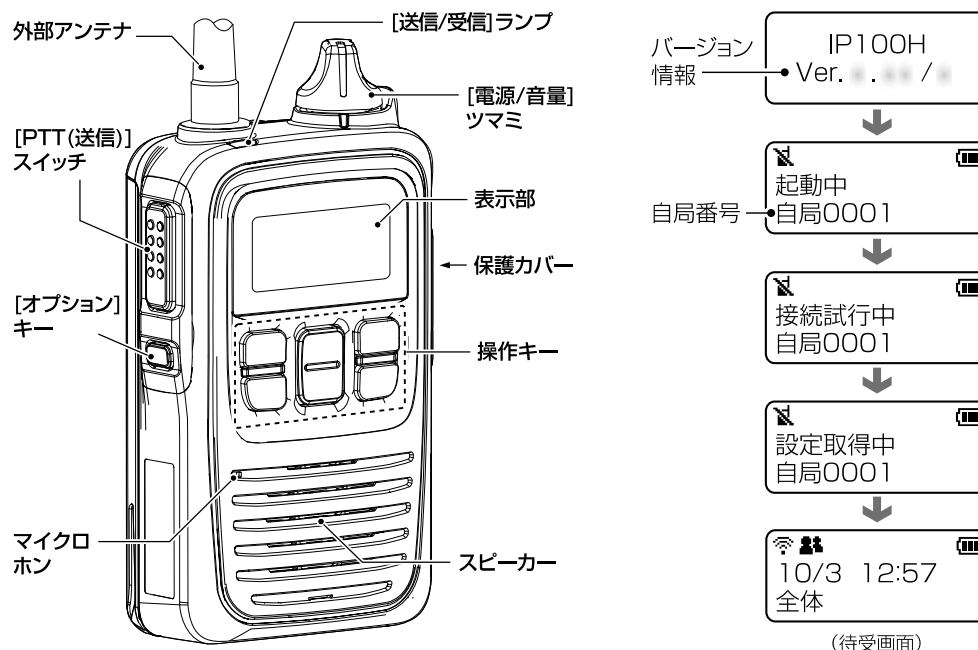
2. 無線機の構築について(つづき)

■ 登録の確認/IP100Hの再起動について

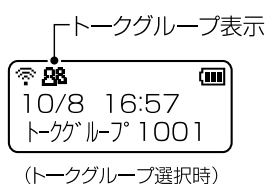
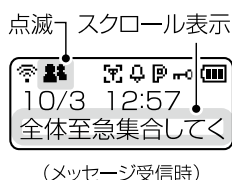
IP1000C側にIP100Hを登録したあと、CS-IP100H(クローニングソフトウェア)でパソコンからIP100Hを設定します。

IP100Hが再起動すると、IP1000Cの設定内容を自動的に取得します。

※IP100Hが待受画面を表示しないときは、IP1000Cや無線アクセスポイントの設定を確認してください。



表示部のアイコンについて



電波状態表示

無線アクセスポイントを経由して、IP1000Cと接続したときに、電波の強度を3段階(目安)で表示します。

※無線アクセスポイントに接続できていないときは点滅(圏外)、IP1000Cと接続できていないときは点灯(未レジスト)を表示します。

呼び出しモード表示

全体/グループ呼び出し

個別呼び出し

電話(発信/着信)

トークグループ呼び出し

※呼び出しやメッセージを受信したときは、アイコンが点滅します。

近隣呼出機能表示

ポケットビーブ機能表示

Pベル機能表示

ロック機能表示

電池残量表示

【設定の更新について】

本製品で変更した設定をIP100Hに反映させるためには、IP100Hの再起動が必要になりますので、ご注意ください。

2. 無線機の構築について(つづき)

■ 無線機の個別設定について

登録したIP100Hごとに機能の割り当てなどを設定します。

※設定変更後は、IP100Hの再起動が必要です。

- 1 「無線機設定」メニュー、「無線機個別」の順にクリックします。
「無線機個別」画面が表示されます。
- 2 「無線機個別設定」項目で、設定する個別番号を選択し、必要に応じて機能の割り当てをします。

無線機個別設定

個別番号: 0001(営業1) ▼

表示部

表示項目:
バックライト:

送信動作

送信禁止:
PTTロック:

呼出先指定

待受画面での呼出:
アドレス帳からの呼出:
呼出種別: 全体 ▼

受信通知

通知音量: 10 ▼
通知動作: 通知音 ▼

通知音(受信通知を除く)

通知音量: 10 ▼

機能設定

通信方式: ☐ 単信通信 ☒ 複信通信

優先呼出: ☒ 無効 ☐ 有効

近隣呼出: ☐ 無効 ☒ 有効

メッセージ: ☐ 無効 ☒ 有効 メッセージ先頭番号: 1 ▼

優先呼出の音声ミキシング: ☐ 無効 ☒ 有効

① 選択する

② 設定する

- 3** 〈登録〉をクリックします。

SYSLOG送信レベル: ☐ DEBUG ☐ INFO ☐ NOTICE

登録

戻る
 実行

 クリック

- #### 4 [無線機個別設定一覧]項目で、登録した内容を確認します。

無線機個別設定一覧							
機種	名前	個別番号	アドレス帳からの呼出	近隣呼出	メッセージ	プレゼンス	オプションキー
IP100H	営業1	0001	有効	有効	有効	有効	無効
IP100H	営業2	0002	有効	有効	有効	有効	無効
IP100H	営業3	0003	有効	有効	有効	有効	無効

2 導入ガイド

2. 無線機の構築について(つづき)

■ グループ呼び出しについて

登録したIP100H、IP100FSをグループにして、「会議」(複信通信による多者間通話)を設定する場合を例に説明します。

※設定変更後は、IP100Hの再起動が必要です。

- 1 「呼出先設定」メニューをクリックします。
「呼出先設定」画面が表示されます。

- 2 「呼出先設定」項目で、名前、呼出種別、グループ番号(4桁の数字)を設定して、一覧からグループに所属するIP100H、IP100FSを選択し、〈登録〉をクリックします。

呼出先設定

番号: 1
名前: 営業グループ1
呼出種別: グループ
呼出先番号: 0101

無線機呼出

通信種別: ☐ 同報 ☒ 会議

所属する無線機

☐ すべて ☒ 0001(営業1) ☒ 0002(営業2) ☒ 0003(営業3) ☐ 0004(営業4)

他拠点

登録

①設定する
②選択する
③クリック

- 3 「呼出先設定一覧(グループ)」項目で、登録した内容を確認します。

呼出先設定一覧(グループ)

☐ すべて

番号	名前	呼出先番号	所属する無線機台数	他拠点
1	営業グループ1	0101	3	なし

編集 削除
選択削除 全削除

確認する

2 導入ガイド

2. 無線機の構築について(つづき)

■ トークグループ呼び出しについて

あらかじめIP1000C側にトークグループとして登録しておいたグループから、IP100H側でどのグループに所属するかを選択できる機能です。

同じトークグループに所属するほかの端末とグループ呼び出しができます。

※この機能を使用する場合は、あらかじめIP1000C側の「呼出先設定」画面(下図)と「アドレス帳」画面(P.2-10)で、トークグループ番号を登録しておく必要があります。

※設定変更後は、IP100Hの再起動が必要です。

- 1 「呼出先設定」メニューをクリックします。
「呼出先設定」画面が表示されます。

- 2 「呼出先設定」項目で、名前、呼出種別、トークグループ番号(4桁の数字)を設定して、〈登録〉をクリックします。

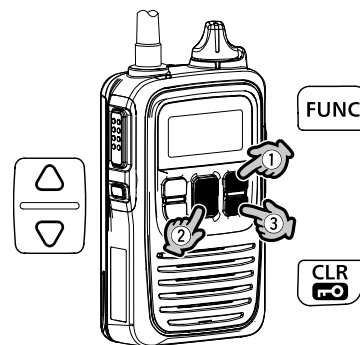
- 3 「呼出先設定一覧(トークグループ)」項目で、登録した内容を確認します。

【IP100H側でトークグループを選択するときは】

- ① [FUNC]キーを押して、トークグループを選択します。
※キーを押すごとに、IP1000C側で割り当てられた機能(メッセージ/プレゼンス/近隣呼出など)が表示されます。
- ② [▲]/[▼]キーを押して、トークグループの番号を選択します。
- ③ [CLR/LOCK]キーを押します。
同じグループ番号(例: 1001)を選択したほかの端末と通話できる状態になります。
※トークグループ選択時、IP1000C側の「呼出先設定一覧(グループ)」に設定された通常のグループ呼び出し(P.2-8)は使用できません。
※手順②でOFFを選択すると、トークグループが解除されます。



トークグループ
選択時の待受画面



2 導入ガイド

2. 無線機の構築について(つづき)

■ アドレス帳について

IP100Hが使用するアドレス帳を登録します。

※登録後は、IP100Hの再起動が必要です。

- 1 「設定グループ」メニュー、「アドレス帳」の順にクリックします。
「アドレス帳」画面が表示されます。
- 2 [アドレス帳グループ設定]項目で、アドレス帳グループ番号を選択します。
※この画面で選択したアドレス帳グループ番号(例：1)を、「設定グループ詳細」画面で指定します。
※グループ番号ごとに、登録されているアドレス帳が切り替わります。
- 3 [アドレス帳設定]項目で、名前★、呼出種別、呼出先番号(4桁の数字)を設定して、〈登録〉をクリックします。
★IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大16文字になります。
★環境依存文字を入力しないでください。
環境依存文字を使用すると、100Hの画面で正常に表示されません。

アドレス帳グループ設定

アドレス帳グループ番号: 1(0件) ※変更すると、表示するアドレス帳のグループが変更されます。

アドレス帳グループ詳細設定

アドレス帳設定

登録方法:
番号:
名前:
呼出種別:
呼出先番号:

登録

1 設定する
2 クリック

「無線機追加」画面や「呼出先設定」画面で登録した呼出先から選択するときは、「一覧から選択」をクリックします。(P.4-80)

- 4 [アドレス帳設定一覧]項目で、登録した内容を確認します。

アドレス帳設定一覧

番号	名前	呼出種別	呼出先番号
1	営業1	個別	0001
2	営業2	個別	0002
3	営業3	個別	0003
4	営業4	個別	0004
5	営業グループ1	グループ	0101

編集 削除
編集 削除
編集 削除
編集 削除
編集 削除
全削除

確認する

2 導入ガイド

2. 無線機の構築について(つづき)

■ メッセージについて

IP100Hが送信するメッセージを登録します。

※登録後は、IP100Hの再起動が必要です。

- 1 「設定グループ」メニュー、「メッセージ」の順にクリックします。
「メッセージ」画面が表示されます。
- 2 [メッセージグループ設定]項目で、メッセージグループ番号を選択します。
※この画面で選択したメッセージグループ番号(例：1)を、「設定グループ詳細」画面で指定します。
※グループ番号ごとに、登録されているメッセージが切り替わります。
- 3 [メッセージ設定]項目で、IP100Hから送信できる定型メッセージを半角32(全角16)文字以内で入力して、〈登録〉をクリックします。
※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大16文字になります。
※環境依存文字を入力しないでください。
環境依存文字を使用すると、100Hの画面で正常に表示されません。
※グループごとに、最大10件まで登録できます。

メッセージグループ設定

メッセージグループ番号: 1 (0件) ※変更すると、表示するメッセージのグループが変更されます。

メッセージグループ詳細設定

メッセージ設定

番号	定型文メッセージ
1	至急集合してください。
2	メッセージを送りました。
3	メッセージを確認してください。
4	問題ないですか。
5	返信をお願いします。
6	至急返信をお願いします。
7	解散してください。
8	作業が完了次第、戻ってください。
9	荷物が届きました。
10	作業が終わりました。

登録

1 入力する

2 クリック

2. 無線機の構築について(つづき)

■ プレゼンスについて

IP100Hが送信するステータス情報を登録します。

※登録後は、IP100Hの再起動が必要です。

- 1 「設定グループ」メニュー、「プレゼンス」の順にクリックします。
「プレゼンス」画面が表示されます。
- 2 [プレゼンス設定]項目で、IP100Hから送信するステータス情報は半角32(全角16)文字以内で入力して、
「登録」をクリックします。
※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大16文字になります。
※環境依存文字を入力しないでください。
環境依存文字を使用すると、100Hの画面で正常に表示されません。
※最大10件まで登録できます。

プレゼンス設定

ステータス番号	ステータス名
1	会議中
2	離席中
3	食事中
4	巡回中
5	在席中
6	作業中
7	待機中
8	準備中
9	対応中
10	休憩中

登録

①入力する

②クリック

2 導入ガイド

2. 無線機の構築について(つづき)

■ 設定グループで共用するアドレス帳とメッセージについて

IP100Hが所属する設定グループで使用するアドレス帳、メッセージを指定します。

※設定変更後は、IP100Hの再起動が必要です。

- 1 「設定グループ」メニュー、「設定グループ詳細」の順にクリックします。
「設定グループ詳細」画面が表示されます。
- 2 「設定グループ設定」項目で、設定グループの番号(例：1)を選択します。
※設定グループの番号は、「無線機追加」画面でIP100Hごとに指定した番号です。
- 3 「設定グループ設定」項目で、使用するアドレス帳とメッセージのグループ番号を選択します。

設定グループ設定

番号: 1 ※変更すると、表示する設定グループが変更されます。

名前:

無線LAN

無線LAN: 無線機の設定優先

グループ指定

アドレス帳グループ: 1

メッセージグループ: 1

サーバー接続

登録時間: 60 秒

登録失敗時の再送時間: 10 秒

選択する

- 4 「登録」をクリックします。

連続送信規制: ☒ 無効 ☐ 有効

登録

クリック

- 5 「設定グループ設定一覧」項目で、登録した内容を確認します。

設定グループ設定一覧

番号	名前	無線LAN	アドレス帳グループ	メッセージグループ
1		無線機の設定優先	1	1
2				

編集 削除

追加

全削除

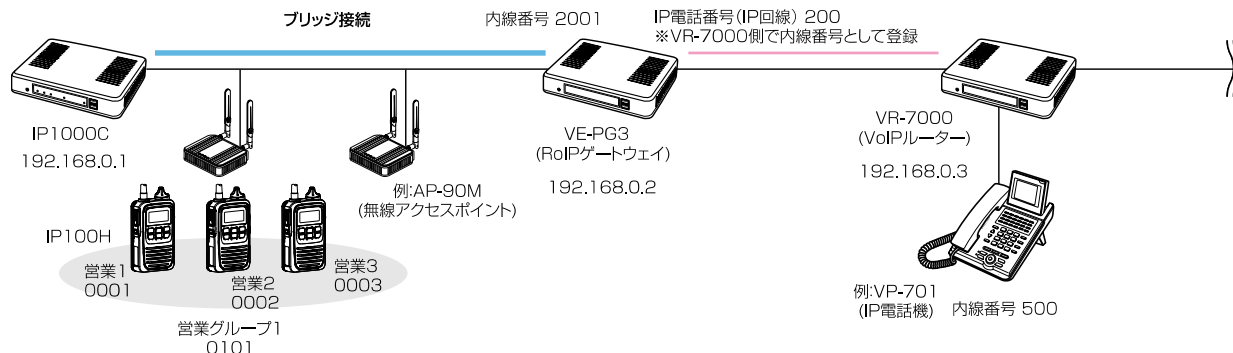
確認する

2 導入ガイド

3. ブリッジ接続と呼出先設定について

弊社製VE-PG3★とブリッジ接続すると、弊社製無線機(特定小電力トランシーバーやデジタル簡易業務用無線機など)とも通信できます。

また、弊社製VR-7000などのVoIPルーターを併用すると内線や外線の通話ができます。



★VE-PG3のファームウェアが「Ver. 1.18」以降の場合、本製品と通信できます。

ご使用になる前に、VE-PG3の設定画面でファームウェア情報をご確認ください。

IP1000C側の設定について

1. 「RoIPサーバー設定」メニュー→「ブリッジ」画面→[ブリッジ設定]項目で、接続先VE-PG3のIPアドレス(例：192.168.0.2)を設定します。

ブリッジ設定	
番号:	1
接続先アドレス:	192.168.0.2
接続先ポート番号:	21530
自局ポート番号:	21530

「呼出先設定」画面の[ブリッジ番号]欄で選択する番号です。

2. 「呼出先設定」メニュー→「呼出先設定」画面で、[呼出種別]欄で「電話」、[呼出先番号]欄でVP-701の内線番号(例：500)、[ブリッジ番号]欄にブリッジ接続で設定したVE-PG3の番号(例：1)を設定します。

呼出先設定	
番号:	2
名前:	500(VP-701)
呼出種別:	電話
呼出先番号:	500
ブリッジ番号:	1

「ブリッジ」画面の[番号]欄で選択した番号です。

3. 「設定グループ」メニュー→「アドレス帳」画面の一覧から、「呼出先設定」画面で設定したVP-701の呼出先番号(例：500)を選択します。

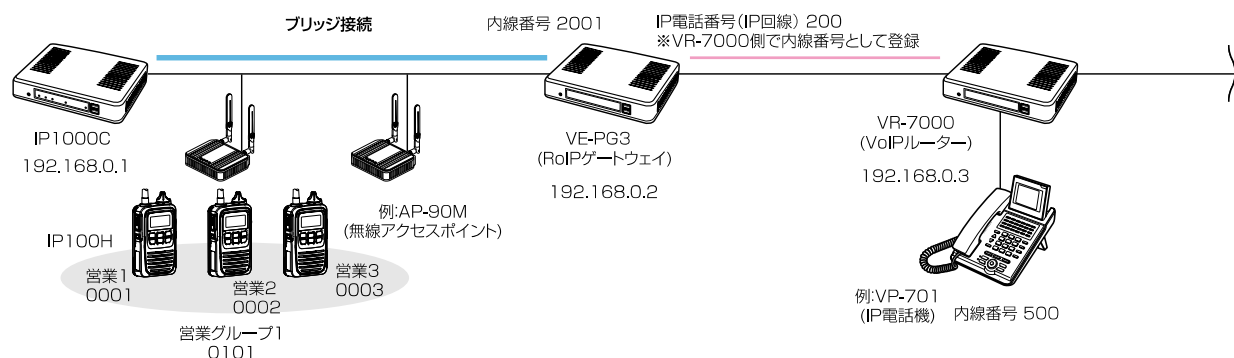
アドレス帳グループ設定			
アドレス帳グループ番号: 1 (0件) ※変更すると、表示するアドレス帳のグループが変更されます。			

アドレス帳設定			
登録方法:	☐ 個別入力 ☒ 一覧から選択		
☐ すべて	名前	呼出種別	呼出先番号
☒	500(VP-701)	電話	500

(次ページにつづく)

2 導入ガイド

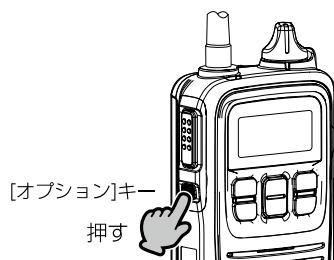
3. ブリッジ接続と呼出先設定について



IP1000C側の設定について(つづき)

4. 「無線機設定」メニュー→「無線機個別」画面で、IP100Hごとにキー割当の[通話中の電話切断]欄が「有効」になっていることを確認します。

The screenshot shows the '無線機個別設定' (Wireless Machine Individual Setting) screen. The '個別番号' (Individual Number) is set to '0001(営業1)'. The '表示部' (Display Section) shows '表示項目' (Display Item) as '時計' (Clock) and 'バックライト' (Backlight) as '操作時点灯' (Light up during operation). The '送信動作' (Transmit Action) section has '送信禁止' (Transmit Prohibit) and 'PTTロック' (PTT Lock) both set to '無効' (Invalid). The '呼出先指定' (Call Forwarding Designation) section has '待受画面での呼出' (Call Forwarding on Wait Screen) set to '有効' (Valid) and 'アドレス帳からの呼出' (Call Forwarding from Address Book) set to '有効' (Valid). The '通知動作' (Notification Action) section has '通知音(受信通知を除く)' (Notification Sound (except for reception notification)) set to '通知音' (Notification Sound). The '機能設定' (Function Setting) section has '通信方式' (Communication Method) set to '単信通信' (Single Communication) and '優先呼出' (Priority Call) set to '無効' (Invalid). The '固定呼出' (Fixed Call) section has '固定呼出' (Fixed Call) set to '無効' (Invalid). The 'キー割当' (Key Assignment) section has 'オプションキー' (Option Key) set to '無効' (Invalid) and '通話中の電話切断' (Call Disconnection during Call) set to '有効' (Valid). A callout box points to the 'オプションキー' (Option Key) dropdown menu, stating: '[オプションキー]欄で「電話切断」を選択すると、[通話中の電話切断]欄は非表示になります。' (When 'Call Disconnection' is selected in the [Option Key] field, the [Call Disconnection during Call] field is hidden.)

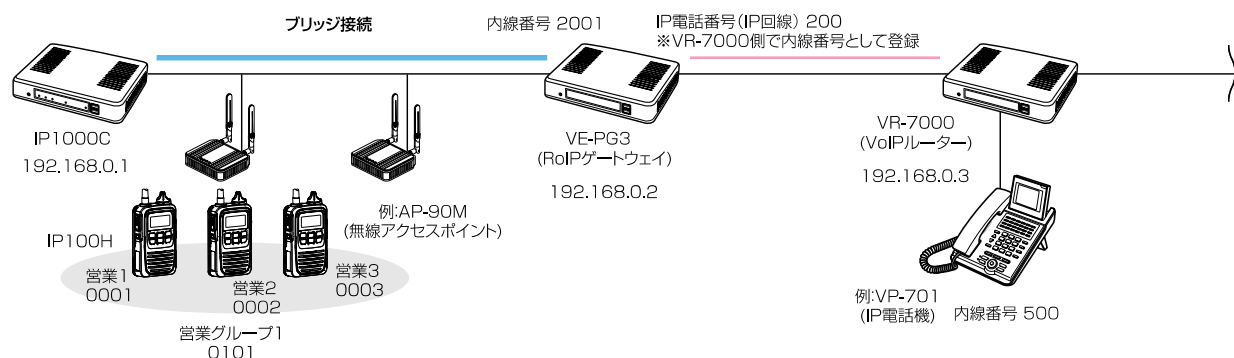


相手が応答する前、または通話中に[オプション]キーを押すと、IP100Hから電話を切れます。

※IP100Hから電話を切れるのは、電話機からIP100Hを個別に呼び出したとき、またはIP100Hから電話機を呼び出したときだけです。

(次ページにつづく)

3. ブリッジ接続と呼出先設定について(つづき)



VE-PG3(コンバーターモード)側の設定について

1. 「ポート詳細設定」メニュー→「ブリッジ」画面(例：ブリッジ1)→[ブリッジ接続設定]項目で、接続先IP1000CのIPアドレス(例：192.168.0.1)、音声Codec(G.711uシグナリング)を設定します。
※接続に使用するポート番号が、ほかの機器と重複しないようにご注意ください。
2. [ブリッジ通信設定]項目で、呼出種別(例：グループ)、相手先番号(例：0101)を設定します。
3. [ブリッジ制御設定]項目で、電話システムとの全二重通話(複信通信)をするために、受信優先を「無効」にします。

ブリッジ接続設定

接続先アドレス: 192.168.0.1
 接続先ポート番号: 21530
 自局ポート番号: 21530
 音声Codec: G.711u シグナリング
 接続状態: 送信中 切断 接続状態の更新

ブリッジ通信設定

秘話: ☒ 無効 ☐ 有効
 呼出先指定
 呼出種別: グループ
 相手局番号: 0101
 自局番号: 0001
 呼出先指定(同報着信)
 呼出種別: グループ
 相手局番号: 0001
 自局番号: 0001

DID呼出機能を使用しない場合は、[ブリッジ通信設定]項目で呼出先(相手局)の設定が必要です。

ブリッジ制御設定

受信優先: ☒ 無効 ☐ 有効
 PTT発信キャンセル: ☒ 無効 ☐ 有効
 無線機への通知音
 着信通知: なし
 呼出開始通知: 通知音2
 通話開始通知: 通知音2
 切断通知: 通知音3
 発信失敗通知: 通知音3
 通知音量: 0 dB
 電話機からのPTT制御方式
 PTT制御方式: VOX
 電話機への発信方式
 発信方式: RTP

必要に応じて、PTT制御方式、発信方式を設定してください。

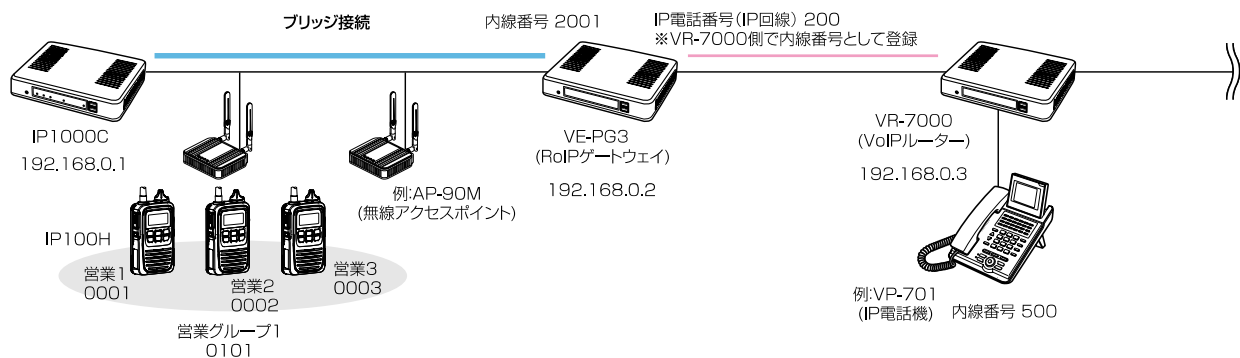
ブリッジへの音声送信制御設定

※アタックタイム、リリースタイム、音声遅延の設定値は5ミリ秒の整数倍となります。
 アタックタイム: 50 ミリ秒

(次ページにつづく)

2 導入ガイド

3. ブリッジ接続と呼出先設定について



VE-PG3(コンバーターモード)側の設定について(つづき)

4. 「V/RoIP回線設定」メニュー→「IP回線」画面→[SIPサーバー設定]項目で、接続先のVR-7000を設定します。

SIPサーバー設定	
番号:	1
IP電話番号:	200
SIPサーバーアドレス:	192.168.0.3
SIPサーバーポート:	192.168.0.3
ユーザーID:	200
パスワード:	
登録時間:	600 秒
再登録周期:	通常時: 50 % 異常時: 50 %

VR-7000で設定された内線番号(例: 200)、IPアドレスなどを設定します。

5. 「内線接続設定」メニュー→「内線」画面で、ポート種別(例: ブリッジ1)、ブリッジ1の内線番号(例: 2001)を設定します。

内線設定	
内線番号:	2001
ポート種別:	ブリッジ1
無線機システムグループ:	なし
ピックアップグループ:	グループ1
発信回線(IP回線):	200
発信回線(Peer to Peer):	発信しない
デフォルト発信先電話番号:	
DID呼出:	☒ 無効 ☐ 有効

6. 「内線接続設定」メニュー→「着信」画面で、着信先ポート(例: 2001)を設定します。

V/RoIP着信設定		
電話番号	回線	着信先ポート
200	IP回線	2001(ブリッジ1)

※電話機から「200」をダイヤルすると、営業グループ1(0011)のIP100Hに着信します。

IP100Hに表示される発信者番号は、電話機の内線番号になります。

※DID呼出機能を使用すると、電話機からIP100Hの個別番号やグループ番号をダイヤルして、特定の相手局へ発信できます。

※上記の手順5.で、[DID呼出]欄を「有効」にした場合、電話機から「200」をダイヤルすると、4秒後(初期値)、ダイヤルトーンが流れ、特定の相手局を呼び出すための番号をダイヤルできます。

このあいだに、営業1(0001)を個別呼び出しするときは、「*011」+「0001」(ブリッジ1の個別呼出プレフィクス+個別番号)をダイヤルします。(最後に#を押すと、即時発信となり待機時間が短縮されます。)

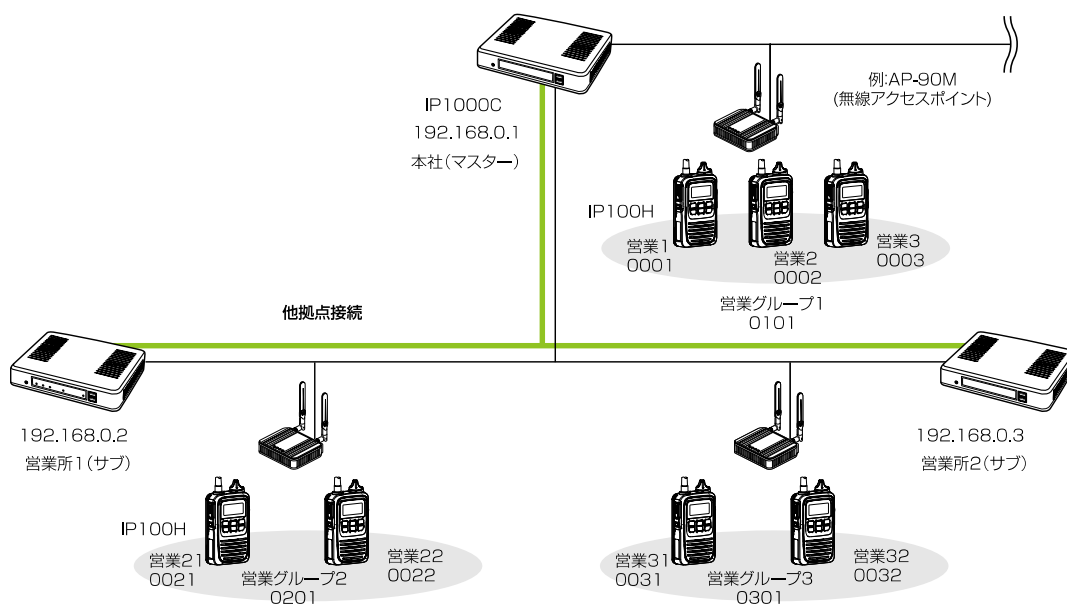
※設定について詳しくは、VE-PG3の取扱説明書をご覧ください。

4. 他拠点接続設定について

他拠点接続機能を使用すると、複数の拠点を接続して、はなれた拠点間で通話ができるようになります。

※1台のマスターに対して、最大10台のサブ(他拠点)が接続できます。

※必要に応じて、弊社製SR-VPN1などVPNルーターをご用意ください。



本社(マスター)側の設定について

1. 「RoIP通信設定」メニュー→「RoIP通信設定」画面→「他拠点通信設定」項目で、他拠点接続を「有効」、他拠点通信モードを「マスター」に設定して、本製品を再起動します。

他拠点通信設定

他拠点接続: ☐ 無効 ☒ 有効
 他拠点通信モード: ☐ サブ ☒ マスター
 自局ポート番号: 32000

2. 「RoIPサーバー設定」メニュー→「他拠点接続」画面で、接続先IP1000C(例: 営業所1(サブ)、営業所2(サブ))のIPアドレスを設定します。

他拠点接続設定

番号: 1
 名前: 営業所1(サブ)
 接続先アドレス: 192.168.0.2
 接続先ポート番号: 32000

登録 取消

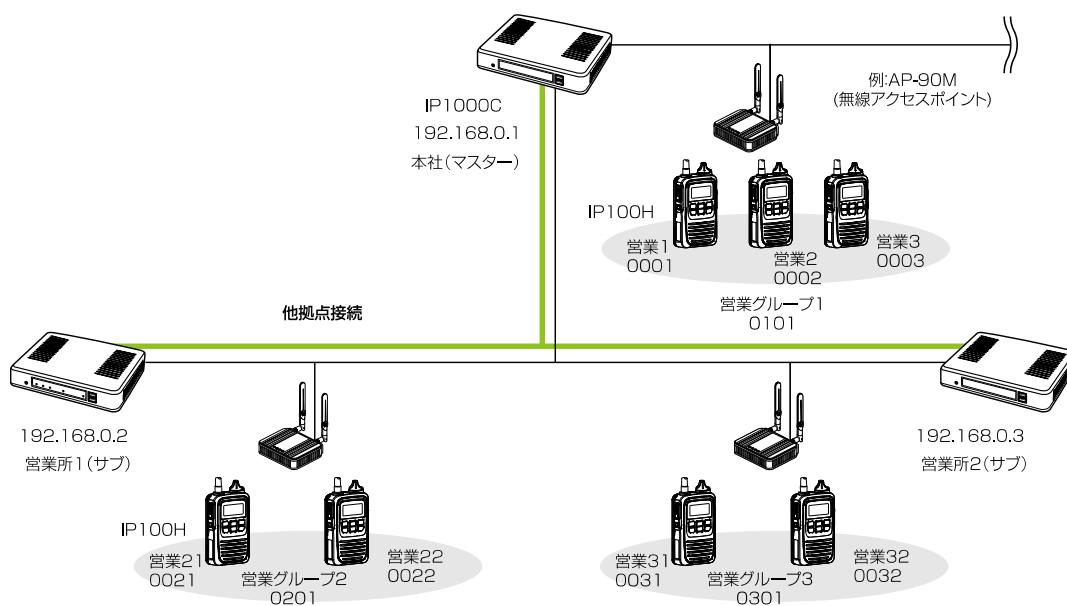
他拠点設定一覧

番号	名前	接続先アドレス	接続先ポート番号	
1	営業所1(サブ)	192.168.0.2	32000	編集 削除
2	営業所2(サブ)	192.168.0.3	32000	編集 削除

全削除

(次ページにつづく)

4. 他拠点接続設定について



本社(マスター)側の設定について(つづき)

3. 「呼出先設定」メニュー→「呼出先設定」画面で、呼出種別を「グループ」、グループ番号(例: 0201)、他拠点(例: 営業所1(サブ)、営業所2(サブ))を設定します。

呼出先設定

番号: 2
 名前: 営業所1(サブ)
 呼出種別: グループ
 呼出先番号: 0201

無線機呼出
 通信種別: ☐ 同報 ☒ 会議

所属する無線機
☐ すべて ☐ 0001(営業1) ☐ 0002(営業2) ☐ 0003(営業3)

他拠点
☐ すべて ☒ 1(営業所1) ☐ 2(営業所2)

グループ番号「0201」で営業所2から営業所1を呼び出さない場合は、営業所1だけを選択します。

登録 取消

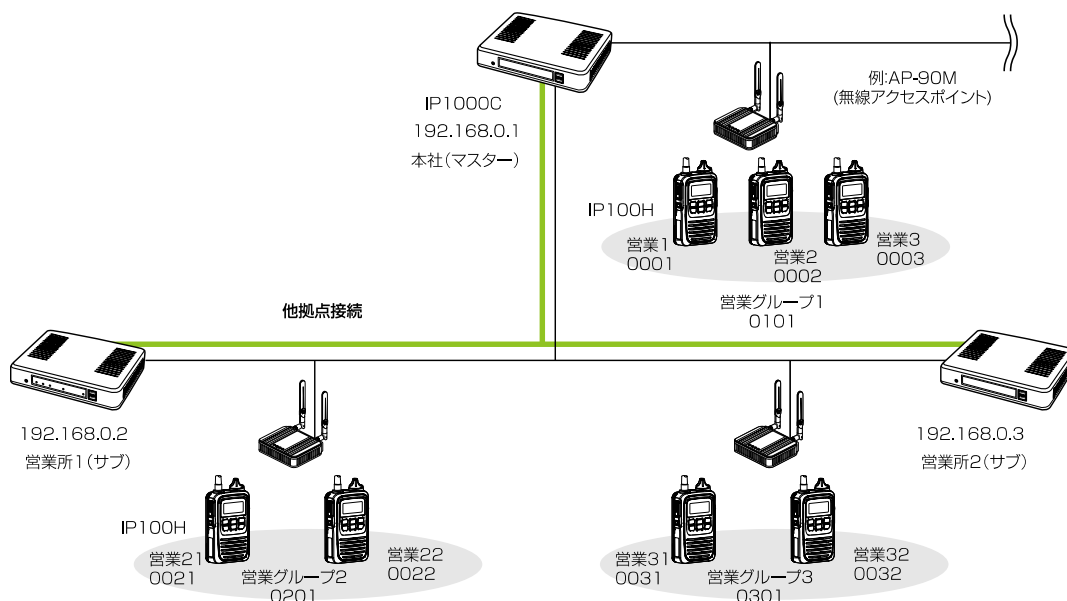
呼出先設定一覧(グループ)

☐ すべて	番号	名前	呼出先番号	所属する無線機台数	他拠点	編集	削除
☐	1	営業グループ1	0101	3	なし	編集	削除
☐	2	営業所1(サブ)	0201	-	あり	編集	削除
☐	3	営業所2(サブ)	0301	-	あり	編集	削除

選択削除 全削除

拠点内で呼び出す無線機の台数と他拠点接続設定の有無を表示します。

4. 他拠点接続設定について(つづき)



営業所1(サブ)側の設定について

営業グループ2(グループ番号「0201」)を呼び出す場合を例に説明しています。

1. 「RoIP通信設定」メニュー→「RoIP通信設定」画面→[他拠点通信設定]項目で、他拠点接続を「有効」、他拠点通信モードを「サブ」に設定して、本製品を再起動します。

他拠点通信設定

他拠点接続: ☐ 無効 ☒ 有効

他拠点通信モード: ☒ サブ ☐ マスター

自局ポート番号:

2. 「RoIPサーバー設定」メニュー→「他拠点接続」画面で、接続先IP1000C(例: 本社(マスター)、営業所2(サブ))のIPアドレスを設定します。

他拠点接続設定

番号:

名前:

接続先アドレス:

接続先ポート番号:

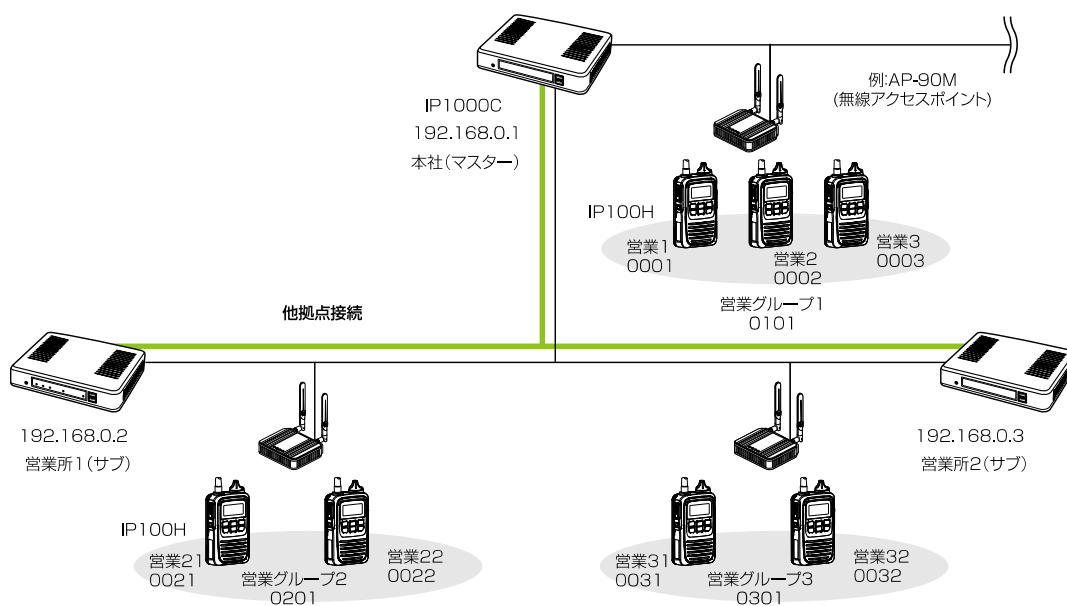
他拠点設定一覧

番号	名前	接続先アドレス	接続先ポート番号	
1	本社(マスター)	192.168.0.1	32000	編集 削除
2	営業所2(サブ)	192.168.0.3	32000	編集 削除

(次ページにつづく)

2 導入ガイド

4. 他拠点接続設定について



営業所1 (サブ)側の設定について(つづき)

3. 「呼出先設定」メニュー→「呼出先設定」画面で、呼出種別を「グループ」、グループ番号(例: 0201)、所属する無線機、他拠点(例: 本社(マスター))を設定します。

呼出先設定

番号: 1
名前: 営業グループ2(他拠.)
呼出種別: グループ
呼出先番号: 0201

無線機呼出
通信種別: ☐ 同報 ☒ 会議
所属する無線機
☐ すべて ☒ 0021(営業21) ☒ 0022(営業22)
他拠点: 1(本社(マスター))

サブ側の[他拠点]欄では、接続するマスター(例: 本社)を選択します。

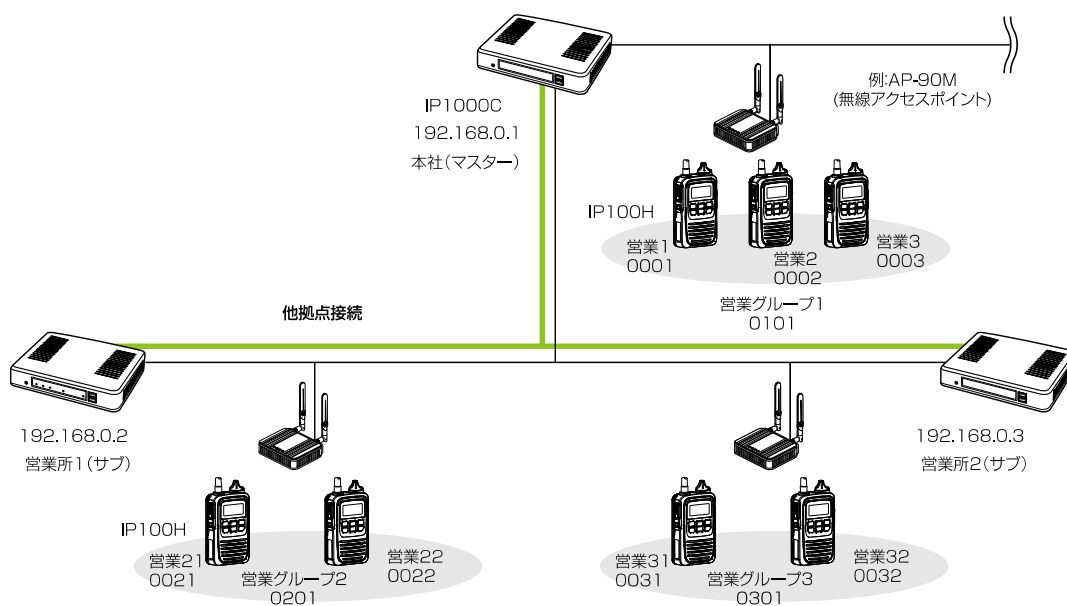
呼出先設定一覧(グループ)

☐ すべて	番号	名前	呼出先番号	所属する無線機台数	他拠点	
☐	1	営業グループ2(他拠点あり)	0201	2	あり	編集 削除

拠点内で呼び出す無線機の台数
と他拠点接続設定の有無を表示
します。

(次ページにつづく)

4. 他拠点接続設定について(つづき)



営業所2(サブ)側の設定について

営業グループ2(グループ番号「0201」)を呼び出す場合を例に説明しています。

1. 「RoIP通信設定」メニュー→「RoIP通信設定」画面→「他拠点通信設定」項目で、他拠点接続を「有効」、他拠点通信モードを「サブ」に設定して、本製品を再起動します。

他拠点通信設定

他拠点接続: ☐ 無効 ☒ 有効

他拠点通信モード: ☒ サブ ☐ マスター

自局ポート番号:

2. 「RoIPサーバー設定」メニュー→「他拠点接続」画面で、接続先IP1000C(例: 本社(マスター))のIPアドレス(例: 192.168.0.1)を設定します。

他拠点接続設定

番号:

名前:

接続先アドレス:

接続先ポート番号:

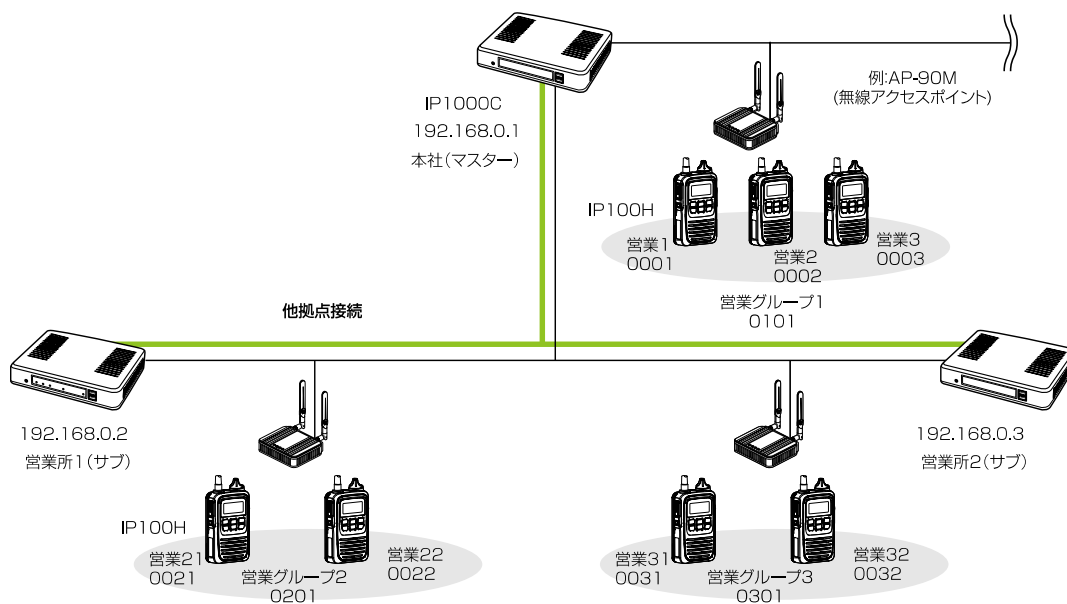
他拠点設定一覧

番号	名前	接続先アドレス	接続先ポート番号	
1	本社(マスター)	192.168.0.1	32000	編集 削除
2	営業所1(サブ)	192.168.0.2	32000	編集 削除

(次ページにつづく)

2 導入ガイド

4. 他拠点接続設定について(つづき)



営業所2(サブ)側の設定について(つづき)

3.「呼出先設定」メニュー→「呼出先設定」画面で、呼出種別を「グループ」、グループ番号(例:0201)、他拠点(例:本社(マスター))を設定します。

呼出先設定

番号: 1
名前: 営業グループ2<他拠点>
呼出種別: グループ
呼出先番号: 0201

無線機呼出
通信種別: ☐ 同報 ☒ 会議

所属する無線機
☐ すべて ☐ 0031(営業31) ☐ 0032(営業32)

他拠点: 1(本社(マスター))

サブ側の[他拠点]欄では、接続するマスター(例:本社)を選択します。

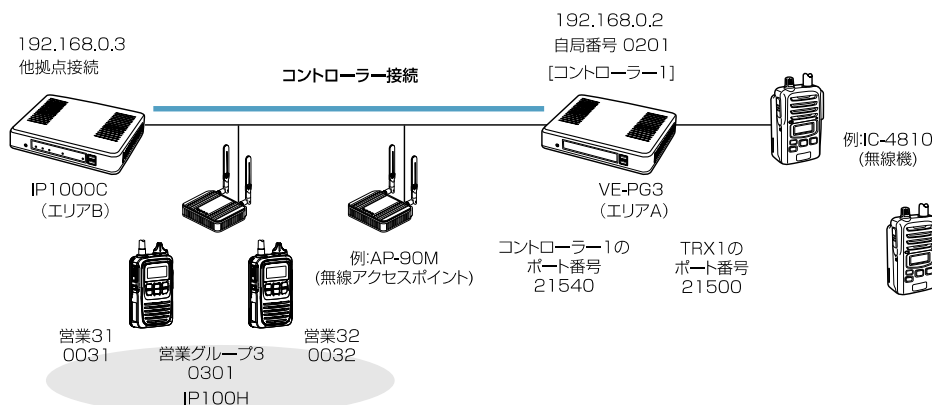
呼出先設定一覧(グループ)

番号	名前	呼出先番号	所属する無線機台数	他拠点	
1	営業グループ2<他拠点あり>	0201	-	あり	編集 削除

拠点内で呼び出す無線機の台数
と他拠点接続設定の有無を表示
します。

5. VE-PG3とのコントローラー接続について

弊社製VE-PG3のコントローラーポート★を使用して本製品と接続すると、弊社製無線機(特定小電力トランシーバーやデジタル簡易業務用無線機など)とも通信できます。



★VE-PG3のファームウェアが「Ver. 2.01」以降の場合、ブリッジモードで本製品と通信できます。
ご使用になる前に、VE-PG3の設定画面でファームウェア情報をご確認ください。

IP1000C側の設定について

1.「RoIP通信設定」メニュー→「RoIP通信設定」画面→「他拠点通信設定」項目で、他拠点接続を「有効」に設定して、本製品を再起動します。

※複数台のIP1000Cを他拠点接続し、グループや全体呼び出しをする場合、サブのIP1000CはVE-PG3を他拠点として設定できませんので、マスターのIP1000Cに接続するように設定してください。

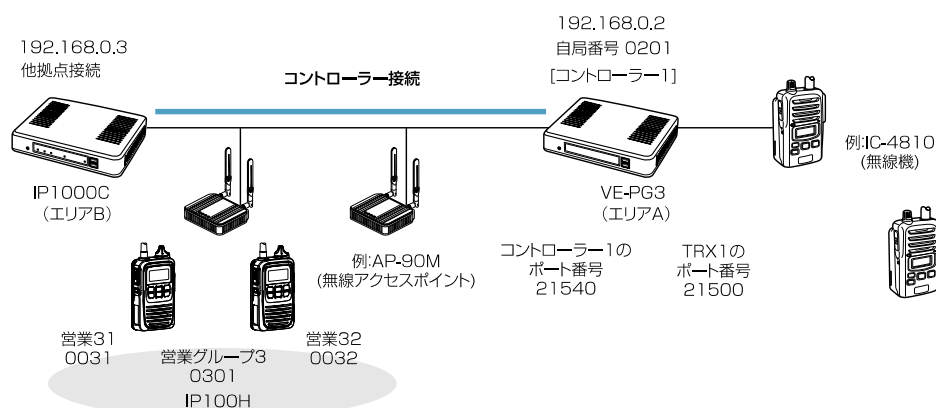
他拠点通信設定	
他拠点接続:	☐ 無効 ☒ 有効
他拠点通信モード:	☒ サブ ☐ マスター
自局ポート番号:	32000

2.「RoIPサーバー設定」メニュー→「他拠点接続」画面で、接続先VE-PG3(例:エリアA)のIPアドレスを設定します。

他拠点接続設定	
番号:	1
名前:	VE-PG3(エリアA)
接続先アドレス:	192.168.0.2
接続先ポート番号:	32010

(次ページにつづく)

5. VE-PG3とのコントローラー接続について

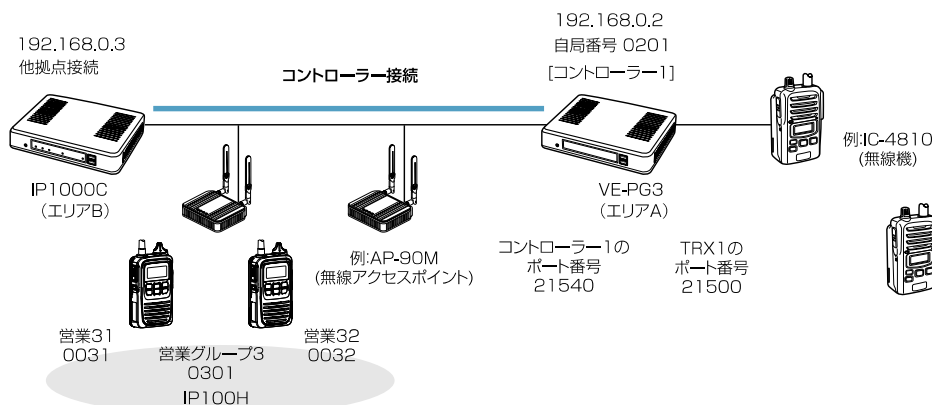


IP1000C側の設定について(つづき)

- 3.「呼出先設定」メニュー→「他拠点接続」画面で、VE-PG3(例：エリアA)を呼び出す種別と番号(例：グループ0301)を設定し、他拠点にVE-PG3(例：エリアA)を指定します。

呼出先設定	
番号:	1
名前:	
呼出種別:	グループ
呼出先番号:	0301
無線機呼出	
通信種別:	☐ 同報 ☒ 会議
所属する無線機	
他拠点	
☒ 1(VE-PG3(エリアA))	

5. VE-PG3とのコントローラー接続について(つづき)



VE-PG3(ブリッジモード)側の設定について

1. 「動作モード設定」メニュー→「動作モード設定」画面→[IP通信モード設定]項目で、接続するポート(例：無線機1 (TRX1))のIP通信モードを「ユニキャスト」に選択)を設定します。
※表示される画面にしたがって、VE-PG3を再起動してください。
2. 「ポート詳細設定」メニュー→「無線機1 (TRX1)」画面→[無線機種設定]項目で、接続する無線機(例：IC-4810)を設定します。
3. 「ブリッジ接続設定」メニュー→「ブリッジ接続先」画面→[ブリッジ接続先設定]項目で、ポート種別を「無線機1 (TRX1)」、VE-PG3に設定されたIPアドレス(例：192.168.0.2)、接続するコントローラー1のポート番号(例：21540)を設定します。
※無線機1 (TRX1)の自局ポート番号を、コントローラー1側で接続先として設定します。

ブリッジ接続先設定	
ポート種別:	無線機1 (TRX1)
接続先アドレス:	192.168.0.2
接続先ポート番号:	21540
自局ポート番号:	21500
音声Codec:	G.711u

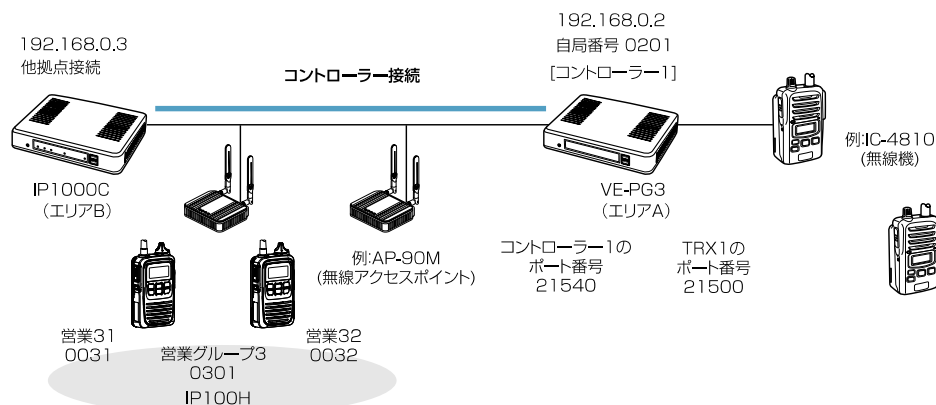
4. ポート種別を「コントローラー1」、VE-PG3に設定されたIPアドレス(例：192.168.0.2)、接続する無線機1 (TRX1)のポート番号(例：21500)を設定します。
※コントローラー1の自局ポート番号を、無線機1 (TRX1)側で接続先として設定します。

ブリッジ接続先設定	
ポート種別:	コントローラー1
ブリッジ個別呼出:	☒ 無効 ☐ 有効
接続先アドレス:	192.168.0.2
接続先ポート番号:	21500
自局ポート番号:	21540
音声Codec:	G.711u

5. [ブリッジ接続先設定一覧]項目で接続するポートの<接続>をクリックして、「送信中」が表示されることを確認します。
※[接続状態]欄で無線機2 (TRX2)が「送信中」となっている場合は、<切断>をクリックします。

ブリッジ接続先設定一覧						接続状態の更新
ポート	接続先アドレス	ポート番号		音声Codec	接続状態	
		接続先	自局			
無線機1 (TRX1)	192.168.0.2	21540	21500	G.711u	送信中	切断 編集 削除
無線機2 (TRX2)	239.255.255.1	22510	22510	G.711u	未接続	接続 編集 削除
コントローラー1	192.168.0.2	21500	21540	G.711u	送信中	切断 編集 削除

5. VE-PG3とのコントローラ接続について



VE-PG3(ブリッジモード)側の設定について(つづき)

6. 「ポート詳細設定」メニュー→「コントローラー1」画面で、IP1000Cに設定されたIPアドレス(例：192.168.0.3)、相手局番号(例：0301)、自局番号(例：0201)を入力し、〈登録〉をクリックします。

コントローラ接続設定

接続先アドレス:	192.168.0.3		
接続先ポート番号:	32000		
自局ポート番号:	32010		
接続状態:	未接続	接続	接続状態の更新

コントローラ通信設定

秘話: ☒ 無効 ☐ 有効

呼出先指定

呼出種別:	グループ
テナント番号:	1
相手局番号:	0301
自局番号:	0201

7. [コントローラー接続設定]項目の<接続>をクリックします。

※「接続状態」欄に、「送信中」が表示されることを確認します。

コントローラ接続設定

接続先アドレス:	192.168.0.3
接続先ポート番号:	32000
自局ポート番号:	32010
接続状態:	未接続 接続 接続状態の更新

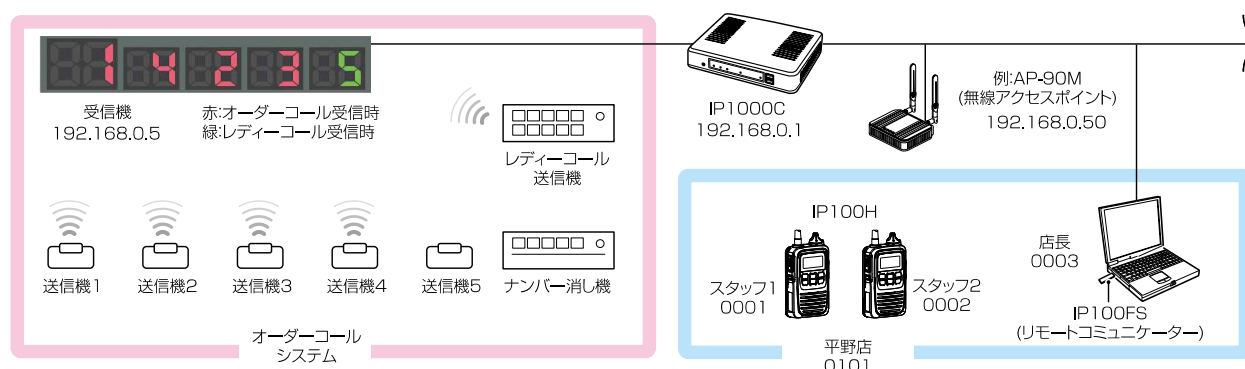
6. オーダーコールシステムについて

オーダーコールシステムと連携して運用する場合は、本製品の専用ページにアクセスして設定します。再起動後、本製品に登録されたIP100H、IP100FSで、オーダーコールシステムの受信機に表示される内容を常時確認できるようになります。

オーダーコールシステムの送信機からの呼び出しを、IP100Hの音声アナウンス、通知音や振動で確認できます。

※オーダーコールシステムの操作や設定など、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書と併せてご覧ください。

本書では、ご使用になるオーダーコールシステムの設定などは完了しているものとして説明しています。



オーダーコールシステム連携時の初期設定について (P.2-29)

オーダーコールシステム受信機のIPアドレスを本製品に登録します。

オーダーコールシステム連携時のグループ設定について (P.2-31)

必要に応じて、オーダーコールシステムのグループごとに、呼び出しを確認する音声アナウンスを設定します。

オーダーコールシステム連携時の設定について (P.2-33)

◎「無線機個別」画面で、オーダーコールアナウンス時の通知音量、[オプション]キーの機能を設定します。

◎「設定グループ詳細」画面で、オーダーコール時やレディーコール時の通知音、所属するオーダーコールシステムグループを設定します。

オーダーコールシステム連携時の操作について (P.2-34)

「設定グループ詳細」画面で指定したオーダーコールグループに登録されたすべての受信機に表示されている番号を、確認したり、消去したりできます。

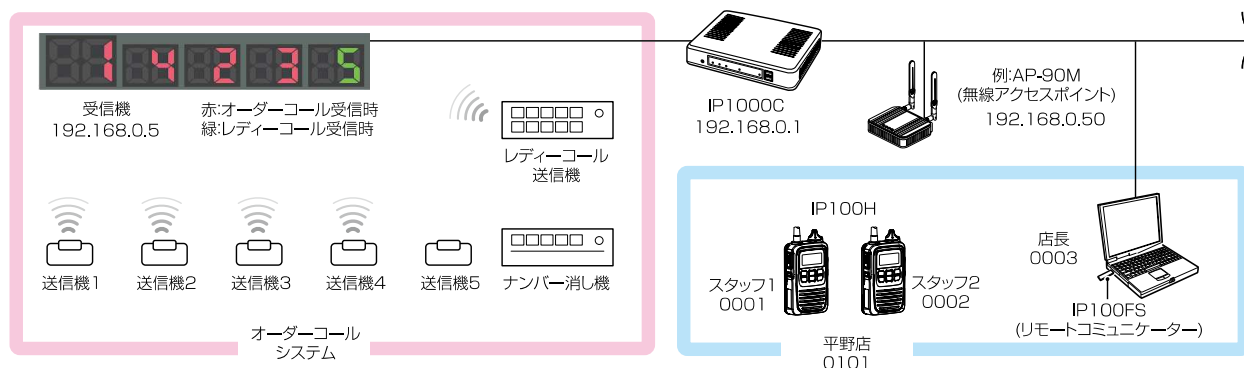
オーダーコールシステム連携時の音声データについて (P.2-36)

音声データ(拡張子:wav)をUSBメモリー(市販品)に保存後、本製品にUSBメモリーを差し込むと、音声アナウンスに使用できます。

※音声データが読み込まれていない状態や通知する内容に一致する音声ファイル名がない場合は、IP1000Cに内蔵された標準音声データを使用します。

2 導入ガイド

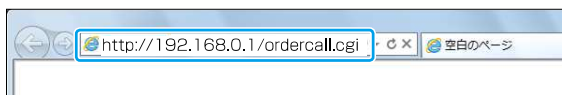
6. オーダーコールシステムについて(つづき)



オーダーコールシステム連携時の初期設定について

1. WWWブラウザのアドレスバーに、「[http://\[本製品のIPアドレス\]/ordercall.cgi](http://[本製品のIPアドレス]/ordercall.cgi)」の形式で、本製品に設定されたIPアドレス(出荷時の設定: 192.168.0.1)を入力し、[Enter]キーを押します。

※初期設定後、オーダーコールシステムとの接続状態を確認する場合、または連携を解除する場合は、手順1の操作で専用ページにアクセスしてください。



2. 「オーダーコールシステム」画面で、「オーダーコールシステム」欄を「有効」に設定します。

オーダーコールシステム

オーダーコールシステム: ☐ 無効 ☒ 有効

登録 取消

3. 〈登録〉をクリックして、表示される画面にしたがって本製品を再起動します。

4. 再起動後、「接続先IPアドレス」欄にオーダーコールシステム受信機のIPアドレス(例: 192.168.0.5)、「接続先ポート番号」欄にオーダーコールシステム受信機のポート番号(例: 10001)を入力し、〈追加〉をクリックします。

※テナント(P.4-23)ごとに最大20件のオーダーコールシステムを登録し、10グループまで登録できます。

オーダーコールシステム設定(テナント1)

番号: 1
名前: 本店
接続先IPアドレス: 192.168.0.5
接続先ポート番号: 10001
オーダーコールグループ: 1

所属するオーダーコールシステムのグループを選択します。(P.2-30)

追加 取消

オーダーコールシステム設定一覧(テナント1)

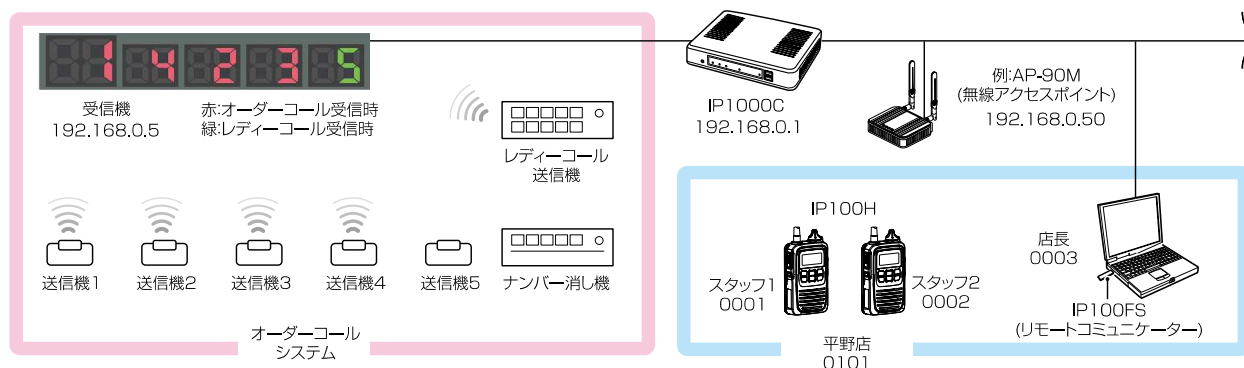
番号	名前	接続先IPアドレス	接続先ポート番号	オーダーコールグループ	接続状態
----	----	-----------	----------	-------------	------

接続状態の更新 全削除

(次ページにつづく)

2 導入ガイド

6. オーダーコールシステムについて



オーダーコールシステム連携時の初期設定について(つづき)

5.〈接続〉をクリックして、[接続状態]欄に「接続中」が表示されることを確認します。

※〈接続状態の更新〉をクリックしても、「接続中(表示)」、または「接続中」と表示されない場合は、〈編集〉をクリックして設定内容を確認してください。

オーダーコールシステム設定一覧(テナント1)

番号	名前	接続先IPアドレス	接続先ポート番号	オーダーコールグループ	接続状態	
1	本店	192.168.0.5	10001	1	接続中(表示)	接続 編集 削除

接続状態の更新 全削除

オーダーコールグループ設定(テナント1)

オーダーコールグループ番号: 1

名前:

オーダーコールアナウンス: ☒ 無効 ☐ 有効

レディーコールアナウンス: 無効

先頭番号付加: ☒ 無効 ☐ 有効

確認アナウンス: 最終番号通知

アナウンス回数: 2

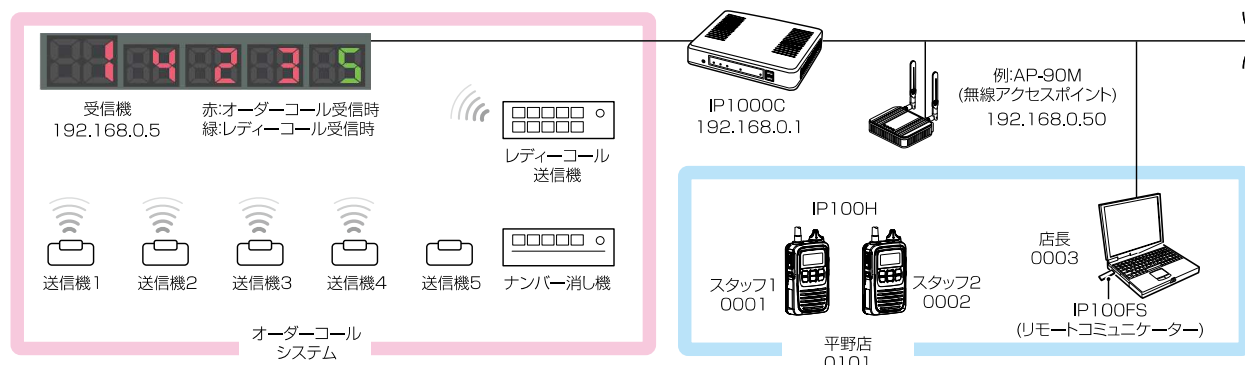
登録 取消

オーダーコールグループの名称が設定されている場合は、末尾に(名前)が表示されます。

【受信機の複数台接続について】

- ◎ オーダーコールグループに対して、複数の受信機が接続できます。
- ◎ 受信機を複数接続すると、最初にIP1000Cと接続できた受信機がマスターになり、そのほかの受信機にはマスターと同じ内容が表示されます。
- ◎ 各オーダーコールグループで、IP100Hの画面表示と連動する受信機は、表示される接続状態(上図)が「接続中(表示)」になり、そのほかの受信機は「接続中」になります。
- ◎ IP100H、IP100FSから消去操作をすると、所属するオーダーコールグループの受信機(マスター)に表示されている一番左の番号を、すべての受信機から一斉に消去できます。

6. オーダーコールシステムについて(つづき)



オーダーコールシステム連携時のグループ設定について

必要に応じて、オーダーコールシステムのグループごとに、呼び出しを確認するアナウンスが設定できます。

オーダーコールグループ設定(テナント1)

① オーダーコールグループ番号: 1

② 名前:

③ オーダーコールアナウンス: ☒ 無効 ☐ 有効

④ レディーコールアナウンス: 無効

⑤ 先頭番号付加: ☒ 無効 ☐ 有効

⑥ 確認アナウンス: 最終番号通知

⑦ アナウンス回数: 2

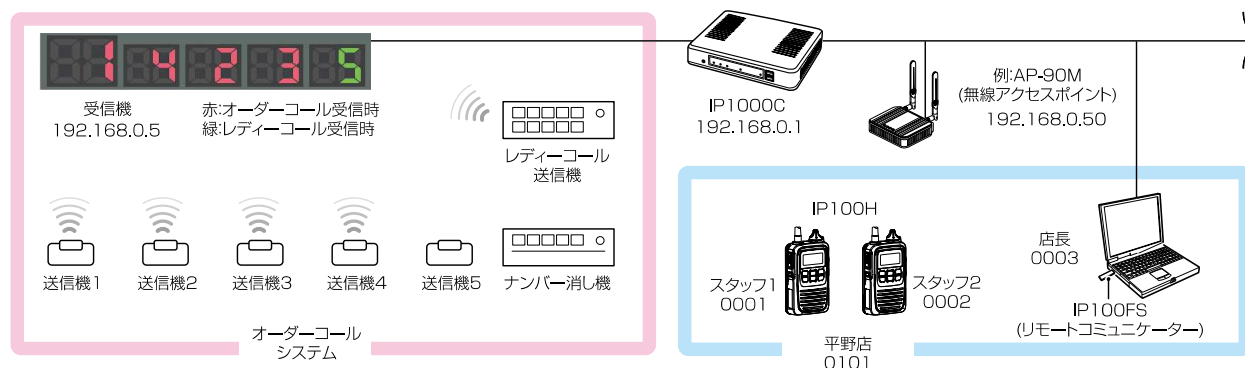
登録 取消

- ① **オーダーコールグループ番号** アナウンスを設定するオーダーコールシステムのグループ番号を、「1」～「10」から選択します。
- ② **名前** 任意の名称を、半角31(全角15)文字以内で入力します。
- ③ **オーダーコールアナウンス** オーダーコールの送信機で呼び出しボタンが押されると通知する音声アナウンスを設定します。
(出荷時の設定：無効)
☒ **無効**：通知しません。
☐ **有効**：押された呼び出しボタンの番号を通知します。
- ④ **レディーコールアナウンス** レディーコールの送信機で呼び出しボタンが押されると通知する音声アナウンス(「コール」)を設定します。
(出荷時の設定：無効)
☒ **無効**：通知しません。
☐ **有効(番号通知なし)**：呼び出しボタンが押されたことを通知します。
☐ **有効(番号通知あり)**：「コール」(P.2-37)につづき、押された呼び出しボタンの番号を通知します。
- ⑤ **先頭番号付加** オーダーコール(③)、またはレディーコール(④)をアナウンスしたあとに、受信機の一番左に表示されている番号も通知するときに設定します。
先頭番号には「ファースト」(P.2-37)を付加して通知します。
(出荷時の設定：無効)

(次ページにつづく)

2 導入ガイド

6. オーダーコールシステムについて



オーダーコールシステム連携時のグループ設定について(つづき)

オーダーコールグループ設定(テナント1)	
① オーダーコールグループ番号:	1
② 名前:	
③ オーダーコールアナウンス:	☒ 無効 ☐ 有効
④ レディーコールアナウンス:	無効
⑤ 先頭番号付加:	☒ 無効 ☐ 有効
⑥ 確認アナウンス:	最終番号通知
⑦ アナウンス回数:	2
登録 取消	

⑥ 確認アナウンス ……………

IP100Hの[オプション]キーを短く押して、オーダーコール(受信機に表示された番号)を音声アナウンスで確認するときに設定します。

(出荷時の設定: 無効)

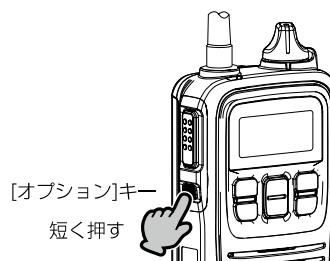
※確認アナウンスの対象になるのは、オーダーコールだけです。

※「無線機個別」画面の[キー割当]で、[確認アナウンス]を「有効」にする必要があります。(P.2-33)

◎無効 : 通知しません。

◎先頭番号通知 : 受信機の一番左に表示されている番号に「ファースト」(P.2-37)を付加して通知します。

◎最終番号通知 : 最後に押された送信機の番号を通知します。



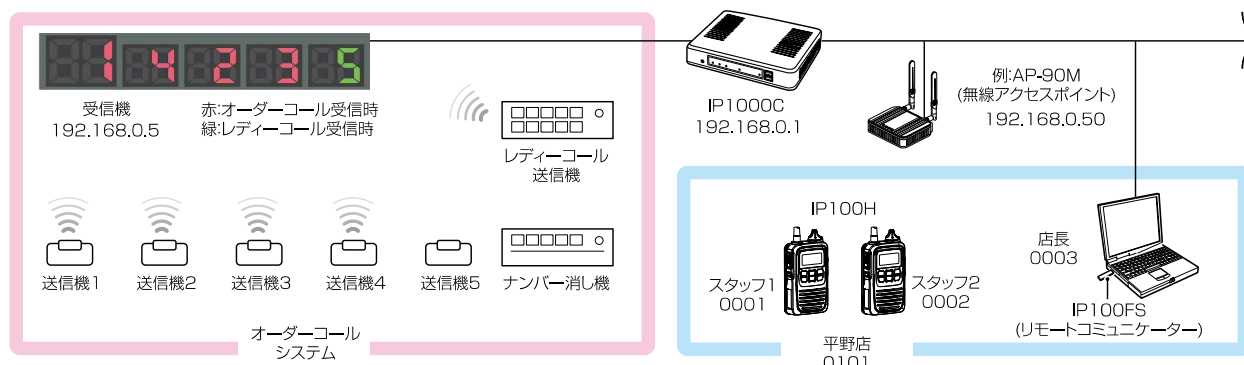
⑦ アナウンス回数 ……………

オーダーコールアナウンス(③)、またはレディーコールアナウンス(④)、確認アナウンス(⑥)で通知するときの回数を、「1」～「3」から選択します。

(出荷時の設定: 2)

2 導入ガイド

6. オーダーコールシステムについて(つづき)



オーダーコールシステム連携時の設定について

オーダーコールシステム連携に切り替わると、表示される設定画面や設定項目が一部変更になります。

「無線機設定」メニュー→「無線機個別」画面

○[オーダーコールアナウンス通知]→[通知音量]

○[キー割当]→[オプションキー]

○[キー割当]→[確認アナウンス]

※「表示項目」は、「オーダーコール」(変更不可)になります。

通知音量: 10

通知動作: 通知音

通知音(受信通知を除く): 10

オーダーコールアナウンス通知

通知音量: 10

機能設定

通信方式: ☐ 単信通信 ☒ 複信通信

優先呼出: ☒ 無効 ☐ 有効

近隣呼出: ☒ 無効 ☐ 有効

メッセージ: ☒ 無効 ☐ 有効 メッセージ先頭番号: 1

プレゼンス: ☒ 無効 ☐ 有効

低優先度呼出の音声ミキシング: ☒ 無効 ☐ 有効

固定呼出

固定呼出: 無効

キー割当

オプションキー: 表示消去

確認アナウンス: ☒ 無効 ☐ 有効

通話中の電話切断: ☐ 無効 ☒ 有効

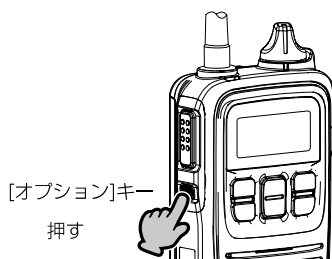
接続確認

接続確認: ☐ 無効 ☒ 有効

キー操作音

キー操作音: ☐ 無効 ☒ 有効 音量: 10

マイク



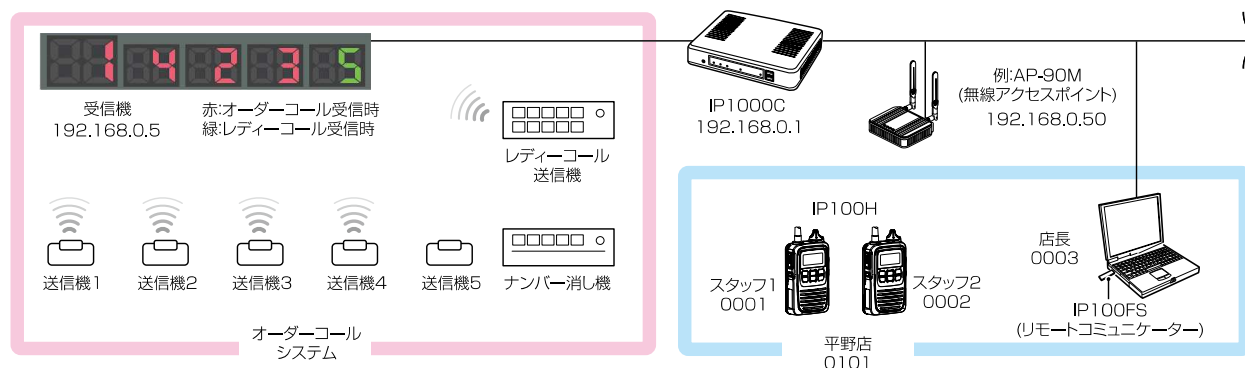
短押し: オーダーコールをアナウンスで確認するとき

長押し: オーダーコールの表示を消去するとき

(次ページにつづく)

2 導入ガイド

6. オーダーコールシステムについて



オーダーコールシステム連携時の設定について(つづき)

オーダーコールシステム連携に切り替わると、表示される設定画面や設定項目が一部変更になります。

「設定グループ」メニュー→「設定グループ詳細」画面

- ◎[オーダーコールシステム]→[オーダーコールシステム]
- ◎[オーダーコールシステム]→[オーダーコールグループ]
- ◎[受信通知音]

設定グループごとに、「有効」/「無効」を選択できます。

設定グループごとに、オーダーコールグループ(1～10)、またはプレゼンス指定★を選択します。(P.2-30)

必要に応じて、通知音と呼出回数を変更してください。

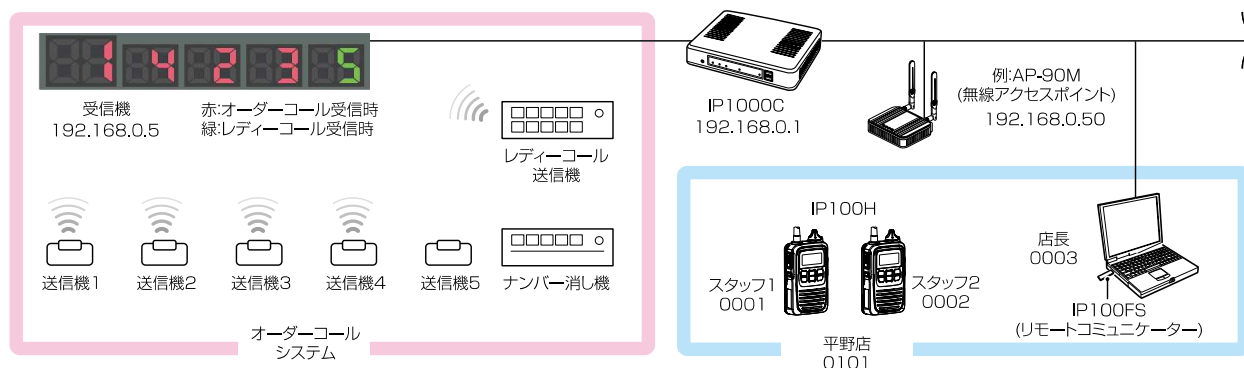
★[オーダーコールグループ]欄で「プレゼンス指定」を選択したときは、送信するステータス情報の番号(下図参照)に応じて、所属するオーダーコールグループが切り替わります。

「設定グループ」メニュー→「プレゼンス」画面

たとえば、IP100Hの画面で「フロア移動(食堂)」を選択し、プレゼンスを送信すると、操作したIP100Hが所属するオーダーコールグループは「1」(P.2-30)になります。

ステータス
プレゼンス
フロア移動(食堂)

6. オーダーコールシステムについて(つづき)



オーダーコールシステム連携時の操作について

オーダーコールシステム連携に切り替わると、画面に表示される内容や操作が一部変更になります。

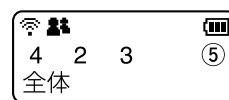
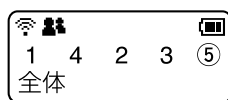
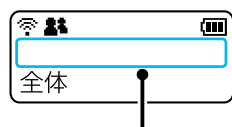
※「設定グループ詳細」画面で指定したオーダーコールグループごとに、受信機に表示されている番号を確認したり消去したりできます。

●IP100Hでは

オーダーコールシステム連携時、呼び出しボタンを押した送信機の番号が画面に表示されます。

※表示番号の点滅機能には対応していません。

※[オプション]キーに「表示消去」を割り当てている場合、IP100Hの[オプション]キーを長く(約1秒)押すと、受信機の一番左に表示されている番号が消去できます。



通常の待受画面(P.2-6)と異なり、オーダーコールシステム連携時の待受画面には、日時が表示されません。

オーダーコールは左から消去されます。
※丸数字はレディーコールを示します。

●IP100FSでは

オーダーコールシステム連携時、オーダーコールシステム受信機の状態画面が別画面で常時表示されます。

※番号表示の点滅機能には対応していません。



オーダーコール、レディーコールとも任意の番号を消去できます。
消去するときは、画面上の番号表示をクリックします。

6. オーダーコールシステムについて(つづき)

オーダーコールシステム連携時の音声データについて

オーダーコールシステム連携に切り替わると、「TOP」画面に[オーダーコール音声データ]欄が表示されます。

製品情報	
本体名称	IP1000C
IPL	Rev. 1
バージョン	Ver. 1.24 Copyright 2007-2014 Icom Inc.
LAN MACアドレス	00-90-C7-45-4A-CB
内蔵ファームウェアバージョン(IP100H)	Ver. 1.24
オーダーコール音声データ	オリジナル

IP1000Cに内蔵された標準音声データを使用する場合は、「オリジナル」が表示されます。
※別途音声データを用意して、USBメモリーから読み込ませた場合は、「ユーザーカスタム」が表示されます。

【対応するフォーマットについて】

コーデック	サンプリング周波数	ビット数	チャンネル数	コンテナフォーマット
リニアPCM	8kHz	16ビット	モノラル	wav
G711 μ-law	8kHz	8ビット	モノラル(μ-law)	wav

※あらかじめ音声ファイルの最初と最後に50msの無音区間が挿入されている必要があります。

※音声ファイルは、1つあたり最大5秒までです。

5秒以上の音声ファイルは最初の5秒区間だけ再生します。

※音声データが読み込まれていない状態や通知する内容に一致する音声ファイル名がない場合は、IP1000Cに内蔵された標準音声データを使用します。

【音声データのファイル名と保存先について】

本製品に読み込ませる音声データ(拡張子:wav)は、下図のようにUSBメモリーにフォルダーを用意し、格納してください。

※自身の本体MACアドレスと一致するフォルダーがある場合は(P.5-12)、その中に格納されているordercallフォルダーに保存されているデータを読み込みます。

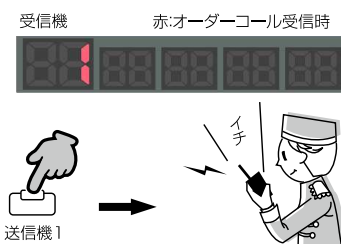
この場合、ルートフォルダーにあるordercallフォルダーは参照されません。

◎ファイル名の数字部分と押されたボタンの番号がリンクしています。

オーダーコールで、送信機1番の呼び出しボタンを押すと、「num001.wav」を再生します。

たとえば、「num001.wav」が「イチ」の場合は、「イチ」となります。

num000.wav : 0番押下
 }
 num099.wav : 99番押下

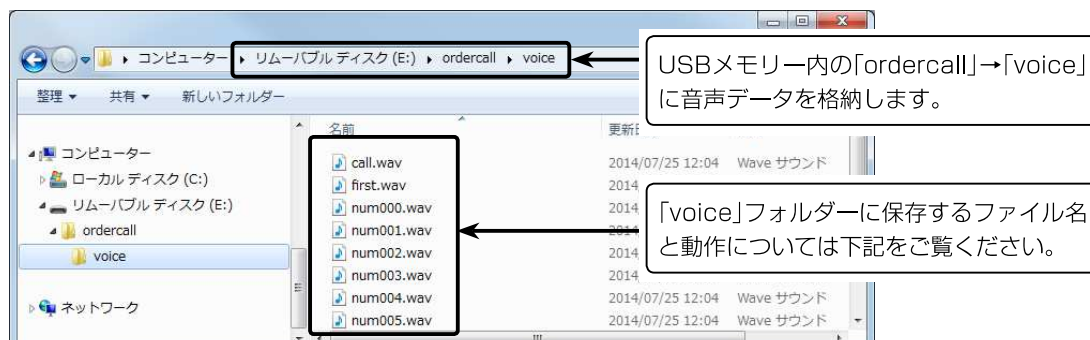


(次ページにつづく)

2 導入ガイド

6. オーダーコールシステムについて

【音声データのファイル名と保存先について】(つづき)



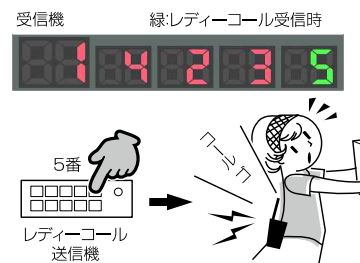
◎レディーコールアナウンス(P.2-31)が「有効(番号通知なし)」に設定されている場合

レディーコールの送信機で呼び出しボタンを押すと、「call.wav」を再生します。
たとえば、「call.wav」が「コール」の場合は、「コール」となります。



◎レディーコールアナウンス(P.2-31)が「有効(番号通知あり)」に設定されている場合

レディーコールの送信機で呼び出しボタンを押すと、「call.wav」と押されたボタンの番号(例: 5)を結合し、再生します。
たとえば、「call.wav」が「コール」の場合は、「コール ゴ」となります。



◎先頭番号付加(P.2-31)が「有効」、または確認アナウンス(P.2-32)が「先頭番号通知」に設定されている場合

オーダーコールシステム受信機の一番左に表示されている番号をアナウンスするときは、「first.wav」と先頭番号(例: 1)を結合し、再生します。
たとえば、「first.wav」が「ファースト」の場合は、「ファースト イチ」となります。



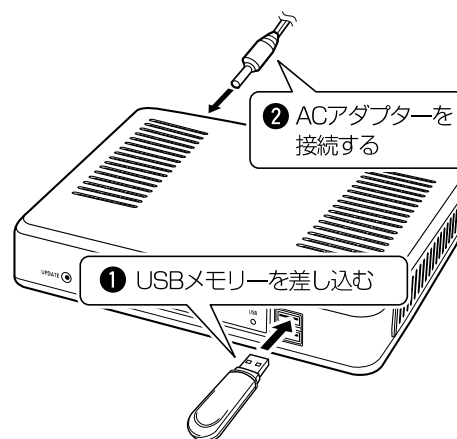
6. オーダーコールシステムについて

オーダーコールシステム連携時の音声データについて(つづき)

【音声データの読み込みについて】

音声データが保存されたUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込んでから、電源を入れてください。

また、[USB]ランプが交互に点滅(※橙色/※緑色)しているときに、USBメモリーを取りはずしたり、本製品の電源を切ったりすると、データ消失や故障の原因になります。



【ご注意】

◎読み込んだ音声データをご利用になる場合は、USBメモリーは本製品に取り付けた状態のまま運用してください。

◎音声データを使わなくなった場合など読み込んだ内容を消去するときは、データ保護のため、必ず本製品の電源を切ってから、USBメモリーを取りはずし、本製品の電源を入れなおしてください。

この章では、
設定の追加や変更が必要と思われる基本的な項目について説明します。

1. 設定画面へのアクセスを制限するには	3-2
設定のしかた	3-2
2. 内部時計を設定するには	3-3
設定のしかた	3-3
3. 本製品のDHCPサーバー機能を使用するには	3-4
設定のしかた	3-4

3 そのほかの基本機能

1. 設定画面へのアクセスを制限するには

出荷時、本製品の設定画面には、[管理者ID (admin)]と[パスワード(admin)]でアクセスできます。
パスワードを設定することで、管理者以外がWWWブラウザから本製品の設定を変更できないようにします。

設定のしかた

- 1 「管理」メニュー、「管理者」の順にクリックします。
「管理者」画面が表示されます。
- 2 [現在のパスワード]、[新しいパスワード]、[新しいパスワード再入力]欄に、任意の英数字/記号(半角31文字以内)で大文字/小文字の区別に注意して入力します。
[新しいパスワード]、[新しいパスワード再入力]欄に入力した文字は、すべて* (アスタリスク)、または● (黒丸)で表示されます。

管理者

管理者パスワードの変更

管理者ID: admin

現在のパスワード: admin

新しいパスワード:

新しいパスワード再入力:

登録 取消

入力する

- 3 <登録>をクリックします。
※[ユーザー名]と[パスワード]を求める画面が表示されたときに、変更した新しい管理者パスワードを入力します。

不正アクセス防止のアドバイス

本製品に設定するすべてのパスワードは、容易に推測されないものにしてください。
数字だけでなくアルファベット(大文字/小文字)や記号などを組み合わせた長く複雑なものにし、さらに定期的にパスワードを変更すると効果があります。

【ご注意】

管理者パスワードを忘れた場合、設定画面を確認するには、工場出荷時(初期化)の状態に戻す必要があります。
※初期化するとき、5-4ページの内容にしたがって、本製品の<INIT>ボタンを操作してください。

3 そのほかの基本機能

2. 内部時計を設定するには

本製品の内部時計を正確に表示させるため、設定されることをおすすめします。

※本製品の自動時計設定機能を使用する場合についても記載していますので、併せてご覧ください。

設定のしかた

- 1 「管理」メニュー、「時計」の順にクリックします。
「時計」画面が表示されます。
- 2 パソコンから自動取得した時刻が、[時刻設定]項目に表示されていることを確認して、〈設定〉をクリックします。
内部時計に設定された時刻が、[本体の現在時刻]欄に表示されます。
※[設定する時刻]欄に表示されている時刻がパソコンと異なるときは、はじめからやりなおすと正確な時刻を取得できます。
※「時計」画面の〈登録〉では、時刻を設定できません。

時計

時刻設定

本体の現在時刻: 2000年02月07日06時11分

設定する時刻: 2016年05月18日13時25分 **設定**

自動時計設定

自動時計設定: ☐ 無効 ☒ 有効

NTPサーバー1: 210.173.160.27

NTPサーバー2: 210.173.160.57

アクセス時間間隔: 1 日

前回アクセス日時: ---/---/---

次回アクセス日時: 2000/01/28 10:14

「有効」に設定されているときは、インターネットに接続すると、下記のNTPサーバーにアクセスして、自動で時刻を設定できます。

SNTPサーバー設定

SNTPサーバー機能: ☐ 無効 ☒ 有効

外部NTPサーバーへの経路が確保できない弊社RoP機器用です。

登録 取消

※初期に参照しているNTPサーバーは、インターネットマルチフィード株式会社のものです。
<http://www.jst.mfeed.ad.jp/>

【ご注意】

自動時計設定機能は、NTPサーバーへの問い合わせ先(経路)を設定する必要があります。

経路を設定しないときは、問い合わせできませんので、自動時計設定機能をお使いいただけません。

「ネットワーク設定」メニュー→「本体IPアドレス」画面→「IPアドレス設定」項目にある「デフォルトゲートウェイ」欄、または「スタティックルーティング」画面の「スタティックルーティング設定」項目で、ルーティングテーブルを設定してください。

3 そのほかの基本機能

3. 本製品のDHCPサーバー機能を使用するには

本製品のDHCPサーバー機能を使用するときは、下記の手順でDHCPサーバー機能と自動割り当て開始IPアドレスを設定してください。

※本製品を接続するネットワーク上にDHCPサーバーが存在する場合に使用すると、IPアドレスの競合など、ネットワーク障害の原因になりますのでご注意ください。

設定のしかた

- 1 「ネットワーク設定」メニュー、「DHCPサーバー」の順にクリックします。
「DHCPサーバー」画面が表示されます。
- 2 [DHCPサーバー設定]項目で、[DHCPサーバー]欄の「有効」をクリックし、必要に応じて[割り当て開始IPアドレス]などを変更します。
※出荷時や全設定初期化時、本製品のDHCPサーバー機能は、「無効」に設定されています。

The screenshot shows the 'DHCPサーバー' (DHCP Server) settings page. The title bar is blue with the text 'DHCPサーバー'. Below it, the 'DHCPサーバー設定' (DHCP Server Settings) section contains several fields: 'DHCPサーバー' (radio buttons for '無効' and '有効'), '割り当て開始IPアドレス' (192.168.0.10), '割り当て個数' (128 個), 'サブネットマスク' (255.255.255.0), 'リース期間' (72 時間), 'ドメイン名', 'デフォルトゲートウェイ', 'プライマリDNSサーバー', and 'セカンダリDNSサーバー'. A '登録' (Register) button is at the bottom right. Three numbered callouts point to specific elements: ① points to the '有効' radio button, ② points to the '割り当て個数' field, and ③ points to the '登録' button. A text box at the bottom left explains that the automatically assigned start IP address must match the product's network IP address.

DHCPサーバー設定

DHCPサーバー: ☐ 無効 ☒ 有効

割り当て開始IPアドレス: 192.168.0.10

割り当て個数: 128 個

サブネットマスク: 255.255.255.0

リース期間: 72 時間

ドメイン名:

デフォルトゲートウェイ:

プライマリDNSサーバー:

セカンダリDNSサーバー:

登録

自動割り当て開始IPアドレスの[ネットワーク部(例: 192.168.0.)]が、本製品のIPアドレスのネットワーク部と同じになるように設定してください。

①クリック

②変更する

③クリック

- 3 <再起動>をクリックします。

This screenshot shows the same 'DHCPサーバー設定' page, but with the '再起動' (Restart) button highlighted with a red box. A red warning message is visible at the top: '再起動は必要が一旦失効されます' (Restarting will temporarily invalidate the settings). A callout 'クリック' (Click) points to the '再起動' button.

再起動

DHCPサーバー設定

DHCPサーバー: ☐ 無効 ☒ 有効

クリック

※表示される画面にしたがって、本製品を再起動します。

自動割り当て個数について

本製品で設定できる自動割り当て可能なIPアドレスの個数は、0個～128個までです。

出荷時の割り当て開始IPアドレスとサブネットマスクの設定値の場合、理論上割り当て可能なIPアドレスの個数は、最大253個までですが、128個を超える分については、手動でクライアントに割り当ててください。

設定画面について

第 4 章

この章では、
各メニューで表示される設定画面について説明します。

1. 設定画面の名称と機能について	4-4
2.「TOP」メニュー	4-5
■ 製品情報	4-5
■ ネットワーク情報	4-5
■ ポート情報	4-6
■ 無線機情報	4-7
3.「情報表示」メニュー	4-8
■ SYSLOG	4-8
■ メモリ使用率	4-9
■ トラフィック統計	4-10
4.「ネットワーク設定」メニュー	4-11
■ 本体名称	4-11
■ IPアドレス設定	4-12
■ DHCPサーバー設定	4-14
■ 静的DHCPサーバー設定	4-16
■ 静的DHCPサーバー設定一覧	4-16
■ IP経路情報	4-17
■ スタティックルーティング設定	4-18
■ スタティックルーティング設定一覧	4-18
5.「VoIP通信設定」メニュー	4-19
■ 他拠点通信設定	4-19
■ VoIP拡張設定	4-20
6.「テナント設定」メニュー	4-23
■ テナント設定	4-23
7.「VoIPサーバー設定」メニュー	4-24
■ ブリッジ設定	4-24
■ ブリッジ設定一覧	4-25
■ ブリッジグループ設定	4-26
■ ブリッジグループ設定一覧	4-27
■ 他拠点接続設定	4-28
■ 他拠点設定一覧	4-29
■ 近隣呼出接続設定	4-30
■ アクセスポイント検索設定	4-31
■ 近隣呼出接続設定一覧	4-32

(次ページにつづく)

4 設定画面について

下記は、前ページからの「つづき」です。

8.「無線機設定」メニュー	4-33
■ 無線機管理	4-33
■ TRX番号設定	4-35
■ TRX番号設定一覧	4-37
■ TRX番号一括設定	4-38
■ 無線機個別設定	4-39
■ 無線機個別設定一覧	4-69
9.「設定グループ」メニュー	4-70
■ 無線LAN設定	4-70
■ 無線LAN設定一覧	4-76
■ アドレス帳グループ設定	4-77
■ アドレス帳グループ詳細設定	4-77
■ アドレス帳設定の保存と書き込み	4-78
■ アドレス帳設定	4-80
■ アドレス帳設定一覧	4-82
■ メッセージグループ設定	4-83
■ メッセージグループ詳細設定	4-83
■ メッセージ設定の保存と書き込み	4-84
■ メッセージ設定	4-86
■ プレゼンス設定	4-87
■ 設定グループ設定一覧	4-88
■ 設定グループ設定	4-89
10.「呼出先設定」メニュー	4-97
■ 呼出先設定 全体	4-97
■ 呼出先設定 グループ	4-99
■ 呼出先設定 トークグループ	4-101
■ 呼出先設定 個別	4-104
■ 呼出先設定 電話	4-105
■ 呼出先設定一覧(全体)	4-106
■ 呼出先設定一覧(グループ)	4-106
■ 呼出先設定一覧(トークグループ)	4-107
■ 呼出先設定一覧(個別)	4-108
■ 呼出先設定一覧(電話)	4-109
11.「管理」メニュー	4-110
■ 管理者パスワードの変更	4-110
■ 時刻設定	4-111
■ 自動時計設定	4-112
■ SNTPサーバー設定	4-113
■ SYSLOG設定	4-114
■ SNMP設定	4-115
■ USB設定	4-116
■ PINGテスト	4-117
■ 経路テスト	4-118
■ 再起動	4-119
■ 設定の保存	4-120
■ 設定の復元	4-120

4 設定画面について

下記は、前ページからの「つづき」です。

■ オンライン設定	4-121
■ 設定内容一覧	4-122
■ 初期化	4-123
■ ファームウェア情報	4-124
■ オンライン更新	4-125
■ 自動更新	4-126
■ 手動更新	4-127

4 設定画面について

1. 設定画面の名称と機能について

本製品の設定画面の名称と各画面に含まれる項目を説明します。



ホームページのリンク

インターネットに接続できる環境で、アイコンをクリックすると、弊社のホームページを閲覧できます。

設定画面選択メニュー

各設定画面を用途別に、メニューとしてまとめています。先頭に▼があるメニュー名をクリックするごとに、そのメニューにある設定画面へのリンクを開け閉めできます。※「TOP」をクリックすると、すべての設定画面へのリンクを開け閉めできます。

設定画面表示エリア

設定画面選択メニューで選択されたタイトルの画面を表示します。

※上図は、「ネットワーク設定」メニューの「本体IPアドレス」をクリックしたときに表示される画面です。

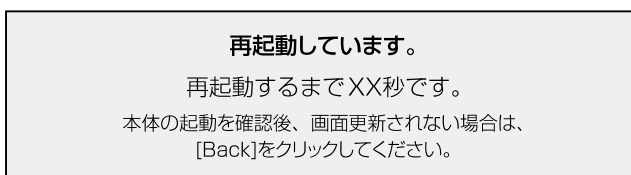
設定ボタン

設定した内容の登録や取り消しをします。

※「登録」をクリックして、「再起動が必要な項目が変更されています。」と表示されるときは、「再起動」をクリックします。

表示された画面にしたがって操作します。

再起動中は、下図を表示します。



※再起動後に、設定した内容が有効となります。

※再起動が完了するまで、[Back]と表示された文字の上にマウスポインターを移動してクリックしても、設定画面に戻りません。

しばらくしてから再度操作してください。

※表示画面によって、表示されるボタンの種類や位置が異なります。

4 設定画面について

2.「TOP」メニュー

[「TOP」](#)

■製品情報

ファームウェアのバージョン情報、本製品の本体MACアドレス(LAN)を表示します。

製品情報	
本体名称	IP1000C
IPL	Rev. 1.0
バージョン	Ver. 1.0 Copyright 2010 Icom Inc.
LAN MACアドレス	0090C7XXXXXX
内蔵ファームウェアバージョン(IP100H)	Ver. 1.0

※MACアドレスは、本製品のようなネットワーク機器がそれぞれ独自に持っている機器固有の番号で、12桁(0090C7XXXXXX)で表示されています。

※本製品本体に貼られているシリアルシールでも、MACアドレスを確認できます。

※本製品に登録されたIP100Hごとのファームウェアのバージョン情報は、[無線機情報]項目、または「無線機設定」メニューの「無線機管理」画面で確認できます。(P.4-34)

■ネットワーク情報

LAN側のIPアドレスなど、ネットワーク情報を表示します。

ネットワーク情報	
LAN IPアドレス	192.168.1.1
DHCPサーバー	無効

■ポート情報

本製品のポートごとに、通信速度と通信モードを表示します。

ポート情報

LAN1	100BASE-TX full-duplex
LAN2	未接続
LAN3	未接続
LAN4	未接続

本製品の[LAN]ポートは、接続モードが「自動(Auto)」となっています。

接続する機器側も「自動(Auto)」を設定することで、通信に最適な速度、モードを自動選択します。

※接続する機器を100Mbps、または10Mbpsで固定する場合、半二重(half-duplex)設定にしてください。

弊社製品に限らず、自動(Auto)と固定速度full-duplexとがネゴシエーションする場合、自動(Auto)側はhalf-duplexと認識されることがあり、パフォーマンスが著しく低下する原因になることがあります。

※通信速度に関係なく、接続するHUBを「full-duplex」固定に設定すると、[ポート情報]項目で「half-duplex」と表示されることがあります。

4 設定画面について

2.「TOP」メニュー(つづき)

「TOP」

■無線機情報

本製品に登録しているIP100H、IP100FSのIPアドレスや接続状況などを表示します。

無線機情報							
① テナント1							
② TRX 番号	③ 機種	④ 名前	⑤ 個別番号	⑥ レジスト状態	⑦ IPアドレス	⑧ バージョン	
1	IP100H	営業1	0001	未接続	—	—	
2	IP100H	営業2	0002	接続中	192.168.0.11	Ver. 1.0.0	
3	IP100H	営業3	0003	未接続	—	—	
4	IP100FS	営業4	0004	未接続	—	—	

※画面は、表示例です。

- ①テナント 「テナント設定」画面の[テナント番号]項目で設定した番号を表示します。
- ②TRX番号 「無線機追加」画面の[TRX番号設定]項目で設定したTRX番号を表示します。
- ③機種 「無線機追加」画面の[TRX番号設定]項目で設定した機種を表示します。
- ④名前 「無線機追加」画面の[TRX番号設定]項目で設定した名前を表示します。
- ⑤個別番号 「無線機追加」画面の[TRX番号設定]項目で設定した個別番号を表示します。
- ⑥レジスト状態 本製品に登録したIP100H、IP100FSの接続状況について、「未接続」、「接続中」などを表示します。
※IP100Hの電源が入っていない、IP100FSが起動していないときなど、本製品に接続していない状態では、「未接続」を表示します。
※IP100FSから遠隔ロックされ、IP100Hが送受信できない、または送信できない状態では、「送受信禁止」、「送信禁止」を表示します。
※「再起動コマンド受信中」、「再起動コマンド受信成功」、「再起動コマンド受信失敗」、「再起動準備中」、「再起動中」、「ファームウェア更新中」、「ファームウェア更新失敗」、「ファームウェアダウンロード中」、「状態通知送信失敗」、「バッテリー不足により失敗」は、「無線機管理」画面でIP100Hの再起動を実行した場合に表示される内容です。
- ⑦IPアドレス 本製品に登録したIP100H、IP100FSが使用しているIPアドレスを表示します。
※IP100Hの電源が入っていない、IP100FSが起動していないときなど、本製品に接続していない状態では、「—」を表示します。
- ⑧バージョン 本製品に登録したIP100H、IP100FSのバージョン情報を表示します。
※IP100Hの電源が入っていない、IP100FSが起動していないときなど、本製品に接続していない状態では、「—」を表示します。

■SYSLOG

本製品のログ情報を表示します。

※「管理」メニューの「SYSLOG」画面で「有効」に設定し、この画面でチェックマークを入れたレベルのログ情報だけが表示されます。

SYSLOG

現在時刻: 2013/10/15 11:06 (起動時間: 0 days 03:50:38)

① 表示するレベル: ☒ DEBUG ☒ INFO ☒ NOTICE

② 再読込 ③ クリア

日付・時間	レベル	内容
10/15 09:41:51	INFO	[PROV]: provisioning done.(model:IP100H ip:172.22.254.38)
10/15 09:41:00	INFO	[PROV]: provisioning done.(model:IP100H ip:172.22.254.53)
10/15 09:41:00	DEBUG	[tSNTPS]: sntp req received from 172.22.254.53:60004
10/15 09:41:00	INFO	[PROV]: provisioning done.(model:ip:txstatus_31 ip:172.22.254.53)
10/15 09:40:58	INFO	[PROV]: provisioning done.(model:ip:txmsg_31 ip:172.22.254.53)
10/15 09:40:51	DEBUG	[tSNTPS]: sntp req received from 172.22.254.38:60004
10/15 09:40:51	INFO	[PROV]: provisioning done.(model:ip:txstatus_37 ip:172.22.254.38)
10/15 07:15:55	DEBUG	[PG-DNS]: Get/Change IP address [ch: 102][IP address: 172.22.69.251]
10/15 07:15:55	DEBUG	[PG-DNS]: Get/Change IP address [ch: 101][IP address: 172.22.69.251]
10/15 07:15:55	DEBUG	[PG-DNS]: Get/Change IP address [ch: 100][IP address: 172.22.69.251]
10/15 07:15:52	NOTICE	IP1000C Ver. [redacted]

④ 保存

※上図のログ情報は表示例です。

- ① **表示するレベル** ログ情報の各レベルについて、表示/非表示を選択します。
非表示に設定するには、非表示にするレベルのチェックボックスのチェックマーク[✓]をはずして、〈再読込〉(②)をクリックします。
(出荷時の設定: ☒ DEBUG ☒ INFO ☒ NOTICE)
※チェックボックスの状態は、保存されません。
設定画面へのアクセスごとに、元の状態に戻ります。
- ② **〈再読込〉** [表示するレベル] (①)欄でチェックマーク[✓]のあるレベルについてのSYSLOG情報を最新の状態にするボタンです。
※512件のログ情報を記憶できます。
512件を超えると、古いログ情報から削除されます。
- ③ **〈クリア〉** ログ情報を削除するボタンです。
※電源を切る、または設定の変更や初期化に伴う再起動でも、それまでのログ情報は削除されます。
- ④ **〈保存〉** 本製品の内部に蓄積され、[表示するレベル] (①)欄で選択したレベルの最新ログ情報を保存するボタンです。
※クリックして、表示された画面にしたがって操作すると、ログ情報をテキスト形式(拡張子: txt)で保存できます。

4 設定画面について

3.「情報表示」メニュー(つづき)

「情報表示」―「統計情報」

■メモリー使用率

本製品のメモリー使用率について、統計グラフを表示します。

※[メモリー使用率]項目の各設定内容は、設定画面へのアクセスごとに、出荷時の状態に戻ります。

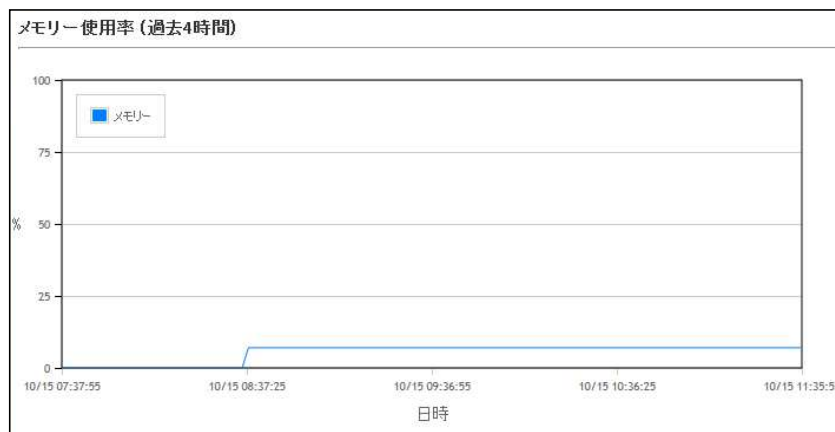
メモリー使用率

① 表示間隔: 2分 ▼

② 自動リロード: ☐ 無効 ☒ 有効

③ 表示

- ①表示間隔 グラフに表示するサンプリング間隔を、「2分」、「1時間」から選択します。
(出荷時の設定：2分)
- ②自動リロード 定期的にグラフを再描画するかどうかを設定します。(出荷時の設定：有効)
※再描画する間隔は、[表示間隔](①)欄で設定した時間になります。
- ③〈表示〉 クリックすると、メモリー使用率グラフを別画面で表示します。
【メモリー使用率グラフについて】



※上図は、表示例です。

※横軸は日時、縦軸はメモリー使用率を表示します。

4 設定画面について

3.「情報表示」メニュー(つづき)

「情報表示」―「統計情報」

■トラフィック統計

本製品のインターフェースごとに、トラフィックの統計グラフを表示します。

※[トラフィック統計]項目の各設定内容は、設定画面へのアクセスごとに、出荷時の状態に戻ります。

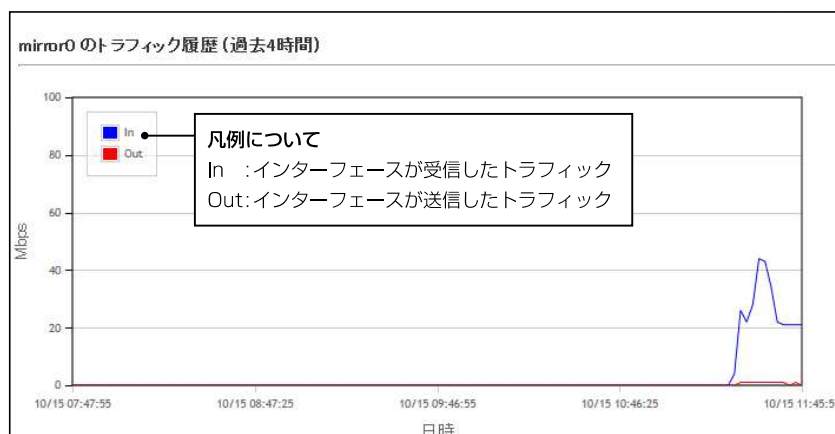
トラフィック統計

① 表示間隔: 2分 ▼

② 自動リロード: ☐ 無効 ☒ 有効

③ 表示

- ① 表示間隔 グラフに表示するサンプリング間隔を、「2分」、「1時間」から選択します。
(出荷時の設定：2分)
- ② 自動リロード 定期的にグラフを再描画するかどうかを設定します。(出荷時の設定：有効)
※再描画する間隔は、[表示間隔](①)欄で設定した時間になります。
- ③ <表示> クリックすると、トラフィック統計グラフを別画面で表示します。
【トラフィック統計グラフについて】



※上図は、表示例です。

※横軸は日時、縦軸はトラフィックの状態を表示します。